

大分市埋蔵文化財調査年報 4

— 平成 4 年度 —

1993

大分市教育委員会

大分市埋蔵文化財調査年報 4

－ 平成 4 年度 －



大分市教育委員会

序 文

悠揚として流れる大野川と大分川の二大河川をはじめとする豊かな自然に恵まれた大分市は、大分県の県都として、また東九州の中核都市として発展してきました。

現在、大分市では21世紀に向けての魅力ある都市づくりを展開するため「活き粋大分づくり運動」を推進し、その一環として「自然と史跡を生かした都市」の創造をめざし、国指定史跡・古宮古墳の保存整備事業をはじめとする各種文化財の保護・整備事業にも積極的に取り組んでいます。

市内には貴重な遺跡が数多く見られますが、こうした恵まれた歴史遺産を保護し、活用することで、歴史・文化の香り高いまちづくりに貢献してまいりたいと存じます。

本年報は、平成4年度に実施しました市内における埋蔵文化財に関する事業の概要を収録するものです。本書が大分市内に所在する埋蔵文化財に対する理解の一助となり、併せてふるさとづくりの資料として少しでもお役に立てれば幸いです。

最後に、今後なおいっそうの文化財保護行政へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。発刊のごあいさつといたします。

平成5年12月31日

大分市教育委員会

教 育 長 清 瀬 和 弘

例 言

1. 本書は大分市域において大分市教育委員会文化財室が平成4年4月1日から平成5年3月31日の間におこなった埋蔵文化財に関する事業内容をまとめた年報である。
2. 平成4年度における調査地点は表2および第2図に示している。
3. 本書の執筆は第Ⅲ章 発掘調査内容の概要の項を各担当者がおこない、文末に執筆者名を記している。また、第Ⅳ章を除く他の部分については坪根が担当した。
4. 第Ⅳ章 受贈図書目録は、平成4年4月1日から平成5年3月31日の期間中に大分市教育委員会文化財室に受贈された書籍等を掲載した。
5. 第Ⅳ章 受贈図書目録の作成は佐藤亜紀(大分市教育委員会文化財室臨時職員)による。
6. 遺構・遺物の実測、図版の作成等において、渕野玲子・西嶋スミエ・町田ユカリ・阿部真知子・堤美智代・成田千春・原田和代(以上大分市教育委員会文化財室臨時職員)の協力を得た。
7. 本文中に掲載した現場写真は各担当者が撮影した。
8. 本書の編集は讃岐・坪根がおこなった。

目次

第Ⅰ章	大分市教育委員会社会教育課文化財室概要	1
第Ⅱ章	平成4年度事業概要	3
	1 開発事前審査事業	3
	(1) 平成4(1992)年度の概要	3
	2 発掘調査事業	4
	3 報告書等刊行事業	6
	(1) 報告書刊行事業	6
	(2) 資料整理事業	6
	4 教育普及活動	7
	(1) 遺跡現地見学会	7
	(2) 大分市文化財だより(創刊号)の発行	7
	(3) 埋蔵文化財速報展	8
	(4) 研修参加	8
第Ⅲ章	発掘調査内容の概要	9
	・下郡遺跡群J区q・r-9・10地点	9
	・下郡遺跡群F区l・m-4・5地点	11
	・下郡遺跡群F区l・m-8・9地点	13
	・横尾遺跡群B-6・7地点	15
	・横尾遺跡群C-14地点	16
	・一木遺跡	17
	・賀来中学校遺跡	19
	・古宮古墳	21
	・羽田遺跡	23
	・穴井下横穴墓	25
	・大曾横穴墓群	27
	・上野大友館跡	29
	・千歳遺跡	31
第Ⅳ章	受贈図書目録	33

挿図目次		
第1図	地区別事前審査内容	3
第2図	平成4年度調査遺跡位置図	5
第3図	古宮古墳見学会	7
第4図	完成した豊後国分寺跡史跡公園	7
第5図	第2回埋蔵文化財速報展	8
第6図	第2回埋蔵文化財速報展古代体験コーナー	8
第7図	2号住居跡遺物出土状況	9
第8図	井戸跡出土遺物	9
第9図	全体遺構配置図(1/400)	10
第10図	調査区全景	11
第11図	掘立柱建物跡検出状況	12
第12図	1号井戸跡検出状況	12
第13図	1号井戸跡出土遺物(1/4)	12
第14図	調査区全景	13
第15図	1号井戸検出状況	13
第16図	25号土壇遺物出土状況	14
第17図	1号井戸跡出土遺物(1/4)	14
第18図	B-6・7地点出土遺物(1/4)	15
第19図	B-6・7地点遺構配置図(1/450)	15
第20図	C-14地点調査区全景	16
第21図	C-14地点遺構配置図(1/300)	16
第22図	調査区全景	17
第23図	土製品実測図(1/2)	17
第24図	住居跡出土遺物実測図(1/4)	18
第25図	調査状況	19
第26図	3号溝遺物出土状況	19
第27図	調査区全景	19
第28図	溝内遺物出土状況	19
第29図	1号溝出土遺物実測図(1/8)	20
第30図	古宮古墳トレンチ配置図(1/300)	21
第31図	古宮古墳石室平面・断面実測図(1/80)	22
第32図	調査区全景(南方向から)	23
第33図	遺物出土状況	23
第34図	古墳時代水田層分布推定図(1/1200)	24
第35図	穴井下横穴墓周辺地形図(1/500)	25
第36図	穴井下横穴墓 平面・断面実測図(1/50)	26
第37図	穴井下横穴墓(前庭部)	26
第38図	穴井下横穴墓(横方向から)	26
第39図	A・B横穴墓平面・断面実測図(1/60)	28
第40図	横穴墓遠景	28
第41図	A号横穴墓内部	28
第42図	B号横穴墓内部	28
第43図	横穴墓調査状況	28
第44図	大友館跡調査地点位置図(1/500)	29
第45図	上野大友館跡土壇断面	30
第46図	上野大友館跡土壇断面図(1/150)	30
第47図	調査地点位置図(1/3000)	31
第48図	調査トレンチ配置図(1/1000)	31
第49図	第1トレンチ南壁土層断面図	32
表目次		
表1	開発事前審査件数	3
表2	大分市平成4年度発掘調査地一覧	4
表3	遺跡現地説明会開催一覧	7
表4	施設見学会開催一覧	7
表5	展示会等開催一覧	8
表6	講演会等開催一覧	8
表7	研修等開催一覧	8

第 I 章

大分市教育委員会文化振興課文化財室概要

1. 沿革

昭和51年4月1日	大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
昭和59年6月28日	大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
平成5年4月1日	大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組

2. 組織

文化振興課	課長	内田	司博
文化財室	室長	秦宮	政英
	主査	佐藤	良雄
	主任技師	讃岐	和藏
	主任技師	塔鼻	光夫
	主事	村山	司子
	技師	坪根	貴也
	技師	池邊	伸太郎

大分市文化財室設置規則（抜粋）

昭和59年6月28日教育委員会規則第5号
改正昭和62年9月29日教委規則第16号
平成5年3月30日教委規則第13号

（設置）

第1条 文化財行政の円滑な推進を図るため大分市文化財室（以下「室」という。）を設置する。

（組織）

第2条 室は、教育委員会事務局文化振興課に所属するものとする。
（平5教委規則13・一部改正）

（分掌事務）

第4条 室の分掌事務は、次のとおりとする。
（1）文化財調査委員に関すること。
（2）文化財に関すること。
（3）文化財保護思想の普及啓蒙に関すること。

附則抄

（施行期日）

1 この規則は、昭和59年7月1日から施行する。

附則（昭和62年教委規則第16号）

この規則は、昭和62年10月1日から施行する。

附則（平成5年教委規則第13号）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

3. 大分市文化財調査委員会

大分市文化財調査委員会委員（平成5年4月1日現在）

	【氏名】	【勤務先・職名】	【担当】
委員長	佐藤 真一	前荷揚町小学校長	動植物
副委員長	豊田 寛三	大分大学・教授	近世
	橋本 操六	大分大学・非常勤講師	中世
	北野 隆	熊本大学・教授	建造物
	日高 稔	大分県教職員第二課・参事	地質鉱物
	橘 昌信	別府大学・教授	考古埋蔵

西別府	元 日	広島大学・助教授	古	代
宗 像	健 一	大分県立芸術会館・主任学芸員	美	術
友 永	尚 子	大分県立芸術会館・主任学芸員	工	芸
小 泊	立 矢	大分県文化課・主幹	民	俗

大分市文化財調査委員会条例

昭和51年3月29日条例 第4号
改正 平成4年12月21日条例 第41号

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、大分市教育委員会(以下「教育委員会」という。)に大分市文化財調査委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議する。

(組織)

第3条 委員会の委員は、10人以内とし、学識経験者のうちから教育委員会が委託し、又は任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とし、その欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員が互選する。

2 委員長は、委員会の会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

(会議)

第6条 会議は、必要に応じ、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(部会)

第7条 委員会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会文化振興課において処理する。

(平4条例41・一部改正)

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則 抄

(施行期日)

1 この条例は、昭和51年5月1日から施行する。

附 則 (平成4年条例第41号) 抄

(施行期日)

1 この条例は、平成5年4月1日から施行する。

第 II 章

平成 4 年度事業概要

1. 開発事前審査事業

(1) 平成 4 (1992) 年度の概要

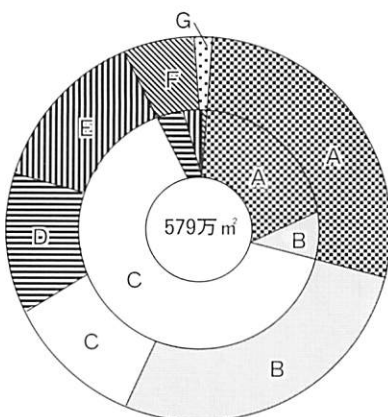
表 1 は平成 4 年度における開発申請の内容を示したものである。

申請総件数は117件であり、平成 3 年度の153件と比較すると25%の減少である。また、面積比率についてみると、平成 4 年度申請面積は5,788,691.38㎡であり、平成 3 年度の6,946,059.62㎡と比較すると、16%の減少ということになる。しかしながら、申請内容をみると平成 3 年度に総申請面積中に高比率を占めていたゴルフ場開発の増加が鎮静化し、中・小規模の宅地造成の急増が認められる。このことは昨年度の総申請面積の約45%をゴルフ場開発関連事業が占めていたこと、さらにはこれらが、周知遺跡の比較的少ない郊外を開発対象にしていたことを考慮すると、平成 4 年度の実質的な調査対象となりうる件数は増加していることになる。

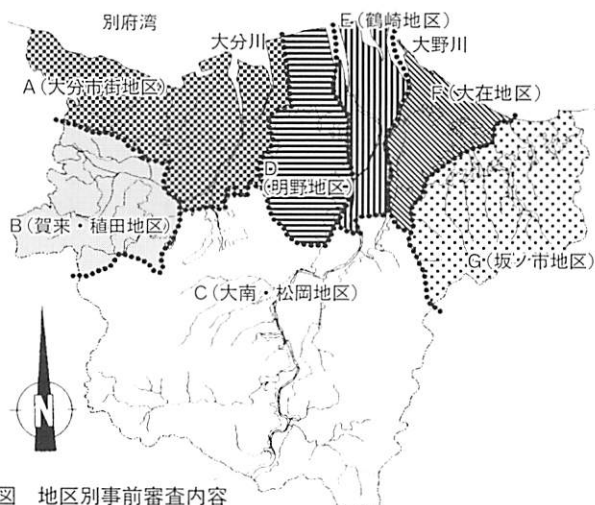
また、地域別の申請件数の増加傾向をみると、大分市街地区(A)ならびに賀来・植田地区(B)での増加が著しく、市域内の周知遺跡の約 8 割が集中する当地域での開発件数の増加は対応調査件数を必然的に急増させる要因となっている。

表 1 開発事前審査件数

地 区 名	件 数	件 数 比	面 積	面 積 比
A－大分市街地区	31	26.5%	1,097,992.03	19.0%
B－賀来・植田地区	34	29.1%	425,341.18	7.3%
C－大南・松岡地区	16	13.7%	4,003,011.30	69.2%
D－明野地区	13	11.1%	130,417.10	2.3%
E－鶴崎地区	16	13.7%	93,100.59	1.6%
F－大在地区	6	5.1%	38,333.80	0.7%
G－坂ノ市地区	1	0.9%	495.38	0.0%
合 計	117 (件)		5,788,691.38 (㎡)	



※内円は面積比、外面は件数比を示す。
また、中央の数値は申請総面積を示している。



第 1 図 地区別事前審査内容

2 発掘調査事業

本年度市域内で実施された発掘調査件数は27件である(試掘確認調査14件・本格調査13件)。

本格調査13件のうち公共事業に伴うものが9件、民間開発に伴うものが4件を占めている。

以下では本年度(平成4年度)の発掘調査の成果を時代順に概観する。

<旧石器時代・縄文時代>

本年度の調査において、旧石器時代・縄文時代の目立った遺構・遺物の検出事例はない。

<弥生時代>

弥生時代の遺構・遺物は、一本遺跡・横尾遺跡群・賀来中学校遺跡・下郡遺跡群などで確認されている。これらのうち、賀来中学校遺跡の調査は今回で3次目となる調査であり、中学校体育館の新築に伴う事前調査として実施されたものである。調査地点は昭和55年の1次調査の調査区に隣接し、この時検出された1号溝の延長部を捕捉することができた。溝内部には弥生後期後葉を中心とする遺物を多数内包し、1次調査時と同様の様相を呈している。また、下郡遺跡群では、この賀来中学校遺跡の溝遺構とほぼ同時期の住居跡を検出し、良好な一括資料を得ている。これらの資料は当該期の土器組成を考究する際の参考となろう。

<古墳時代>

本年度最も調査事例が多く、種々の貴重な成果を得ることができた。古墳1基、横穴墓3基

表2 大分市平成4年度発掘調査地一覧(試掘調査を含む)

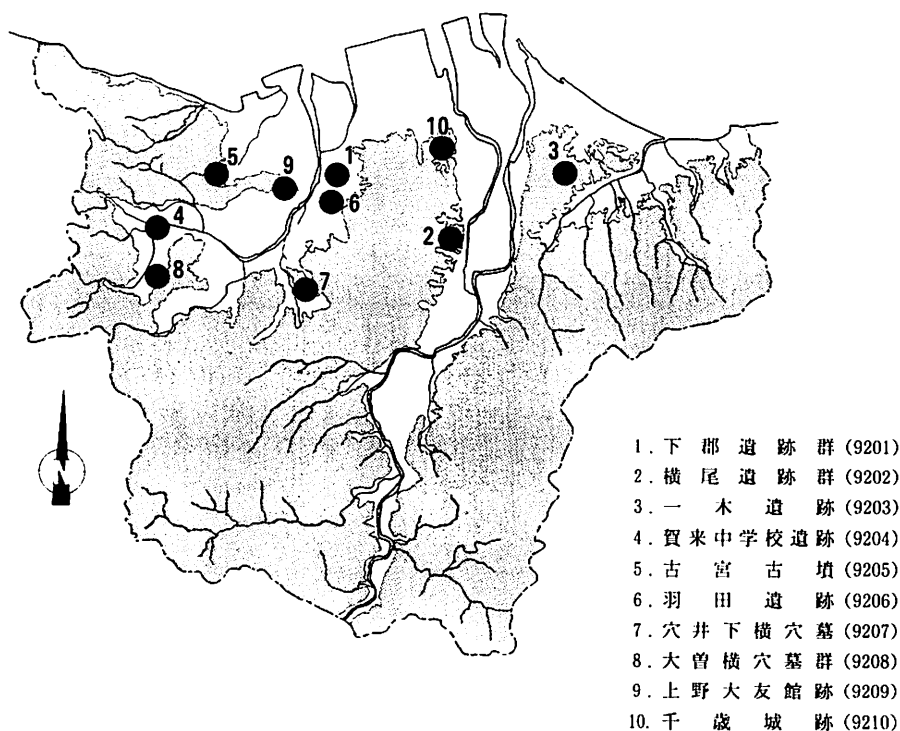
調査番号	遺 跡 名	所 在 地	地 域	調査面積	調査原因	調査期間	担当調査員
9201	下郡遺跡群	大分市大字下郡					
	J区q・r-9・10 地点		A	500㎡		9205	坪根伸也
	F区l・m-4・5 地点		A	1,400㎡		9207～9209	坪根伸也
	F区l・m-8・9 地点		A	1,000㎡		9210～9212	坪根伸也
9202	横尾遺跡群	大分市大字横尾					
	B-6・7 地点		D	1,000㎡		9204～9206	池邊千太郎
	C-14 地点		D	500㎡		9210～9302	池邊千太郎
9203	一本遺跡	大分市大字一本	F	1,000㎡		9005～9008	塔鼻光司
9204	賀来中学校遺跡	大分市大字賀来	B	160㎡		9206～9208	齋岐和夫
9205	古宮古墳	大分市大字三芳	A	古墳1基		9212～9302	齋岐和夫
9206	羽田遺跡	大分市大字羽田	A	1,000㎡		9206	坪根伸也
9207	穴井下横穴墓	大分市大字鷺野	C	横穴墓1墓		9204	齋岐和夫・池邊千太郎
9208	大曾横穴墓群	大分市大字田原	B	横穴墓2墓		9212	齋岐・塔鼻
9209	上野太友館跡	大分市上野丘西	A	100㎡		9303	塔鼻・池邊
9210	千歳城跡	大分市大字千歳	D	100㎡		9302	塔鼻・坪根
	(試掘調査)						
		大分市大字国分	B	38㎡		920415	
		大分市大字羽屋	A	150㎡(400㎡)		920512	
		大分市大字三芳	A	(10,000㎡)		920907～920909	
		大分市丹川	G	25㎡		920921	
		大分市大字片島字稗田	A	横穴1墓		921221～921222	
		大分市城原字大蔵屋敷	F	(1,300㎡)		930112	
		大分市大字横尾字猪野原	D	35㎡(3,000㎡)		930205	
		大分市大字葛木字南屋敷	D	150㎡(2,000㎡)		930313	
		大分市大字下郡	A	住宅関連5件・店舗建設1件			

の他、一木遺跡で5～6世紀に比定される住居跡を検出している。また、羽田遺跡では、当該時期の水田址を確認している。

国指定史跡である古宮古墳の調査は、史跡整備に伴うものであり、昭和55・56年の調査の捕捉調査として、墳丘規模の把握に主眼をおき実施された。穴井下横穴墓は工事中に発見され、緊急に発掘調査を実施したものである。すでに玄室端部は削平を受けて消失しており、入口はすでに開いていた。内部は後世の盗掘、かく乱を受けていた。大曾横穴墓群は土取り事業に伴い調査されたもので横穴墓2基を調査している。後世の削平により、墳形は大きく損なわれていたが、埋土内よりガラス玉・耳環・鉄鏃・馬具等が出土した。

＜奈良時代・平安時代＞

奈良時代～平安時代については、下郡遺跡群において掘立柱建物跡、井戸跡などを検出している。井戸跡は8世紀後半～9世紀に比定されるもので、検出した3基のうち2基には長さ1m前後の方形組板を井戸枠として埋置している。また他に掘立柱建物跡3棟、総柱の倉庫跡1棟を確認している。出土遺物としては、井戸跡・性格不明の土器を中心に多量の土師器、須恵器が出土した他、少量の墨書土器、刻書土器(「高」を刻書した土師器、「上」を刻書した須恵器)、木製斎串などが出土している。さらに、これらの遺物に混じって製塩土器の出土もみられ、大分川の上流4kmに所在する豊後国分寺跡に次ぐ2遺跡目の検出例として注目されよう。



第2図 平成4年度調査遺跡位置図

〈中世〉

中世に関しては、賀来中学校遺跡・下郡遺跡群などで遺構・遺物が確認されている。賀来中学校遺跡で堀様の溝状遺構を確認し、溝内部より土師器、輸入陶磁器、木器等が出土した。出土した輸入陶磁器には龍泉窯系の青磁等がみられ、おおよそ12世紀後半～13世紀前半の年代が考えられる。これは賀来中学校遺跡の2次調査で検出された溝状遺構の推定所産時期に先行するものであり、今後の調査に新たな課題を付与することになった。また、溝内から出土した木器には椀などの他、火きり板などもみられ、市内では初例となる該期の木製資料を良好な状態で得ることができたことは大きな成果と言えよう。下郡遺跡群では該期の井戸跡を数基確認している。内包する輸入陶磁器は賀来中学校遺跡での中世溝とほぼ同様な様相を呈し、近接した使用年代が考えられる。これらの井戸跡中には同時に瓦器椀が共伴出土しており、該器の土器相解明への一資料として重要である。また、1基の井戸底には、水溜部に曲物を据えたものがあり、市内での初例となる井戸型式として注目されよう。中世～近世にかけての調査としては、上野大友館跡の土塁の断面測量調査を実施した。小規模な実測調査ではあったが、これまで調査事例の皆無であった上野大友館跡での調査であり、非常に意義深いものと言えよう。

3 報告書等刊行事業

本年度は9遺跡の資料整理と下記の報告書を刊行した。

(1) 報告書刊行事業

「長谷横穴墓群」	大分県大分市羽田所在遺跡の発掘調査報告書	1992年	大分市教育委員会
「下郡遺跡群」	大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う発掘調査概報(3)	1992年	大分市教育委員会
「羽田遺跡」	大分市営住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	1993年	大分市教育委員会
「国指定史跡 古宮古墳」	史跡整備に伴う発掘調査概報	1993年	大分市教育委員会
「国指定史跡 豊後国分寺跡」	豊後国分寺跡北西地区発掘調査報告書	1993年	大分市教育委員会
「城南遺跡」	大分県大分市大字永興所在遺跡の発掘調査報告書	1993年	大分市教育委員会
大分市埋蔵文化財調査年報3	－平成3年度－	1992年	大分市教育委員会

(2) 資料整理事業

本年度は前述の報告書刊行に伴う資料整理の他、以下の9遺跡の資料整理を実施した。

調査番号	遺 跡 名	所 在 地	調査番号	遺 跡 名	所 在 地
9044	久原遺跡	大分市大字久原	9207	穴井下横穴墓	大分市大字鴛野
9201	下郡遺跡群	大分市大字下郡	9208	大曾横穴墓群	大分市大字田原
9202	横尾遺跡群	大分市大字横尾	9209	上野大友館跡	大分市大字上野丘西
9203	一木遺跡	大分市大字一木	9210	千歳城跡	大分市大字千歳
9204	賀来中学校遺跡	大分市大字賀来			

4 教育普及活動

(1) 遺跡現地見学会

本年度は賀来中学校遺跡・横尾遺跡・古宮古墳において見学会を実施した他、大分市立滝尾中学校の生徒を対象に大分市文化財資料室において発掘資料整理過程の説明会を実施した。



第3図 古宮古墳見学会

表3 遺跡現地説明会（見学会）開催一覧

調査番号	遺 跡 名	所 在 地	開 催 日	参加人数	備 考
9204	賀来中学校遺跡	大分市大字賀来	平成4年7月23日	約40人	発掘調査の見学
9202	横 尾 遺 跡	大分市大字横尾	平成4年9月11日	約40人	発掘調査の見学
9205	古 宮 古 墳	大分市大字三芳	平成4年12月13日	約20人	古宮古墳の現地見学

表4 施設見学会開催一覧

名 称	内 容	開 催 日	参加人数	備 考
大分市文化財資料室見学会	発掘資料整理過程の見学	平成4年5月10日	約30人	大分市立滝尾中学校

(2) 大分市文化財だより1992年号の発行

昨年に引き続き、文化財に対する理解を深めていただく目的で文化財だよりの発行をおこなった。1992年号では、環境整備事業の完了した豊後国分寺跡史跡公園を特集記事として取り上げ、豊後国分寺跡の歴史的な解説をまじえながら、史跡公園のガイダンスとしての内容を掲載した。また、ミニコラムとして現在も保存修理工事が継続しておこなわれている大分市元町石仏の事業内容の紹介をおこなった。



第4図 完成した豊後国分寺跡史跡公園

(3) 埋蔵文化財速報展

今年度も、平成4年7月29日～8月1日に、大分市コンパルホールで第2回埋蔵文化財速報展を開催した。昨年度に引き続き、市内各所より出土した最新の出土品を展示した他、「古代体験空間」と題して4つの特設コーナーを設け、大分の古墳についての紹介を行なうとともに、実際の出土品や映像をとおして歴史を体験できるよう企画した。

特に大分の古墳をテーマとするコーナーでは、県下最大級の亀塚古墳の大型模型や横穴墓の実物大模型を展示し、カラーパネル・ビデオによる解説を行った。

また、第2回埋蔵文化財速報展の記念講演として、別府大学教授・賀川光夫氏による講演会をあわせて実施した。

(4) 研修参加

奈良国立文化財研究所による平成4年度埋蔵文化財技術者専門研修「文化財写真課程」へ職員1名を派遣した他、以下の研修に職員を派遣した。



第5図 第2回埋蔵文化財速報展オープニングセレモニー



第6図 第2回埋蔵文化財速報展古代体験コーナー

表5 展示会等開催一覧

名 称	開 催 日 時	会 場	内 容	参加人数
第2回埋蔵文化財速報展	平成4年7月29日～8月1日	コンパルホール 多目的ホール	最新の発掘資料の 展 示 他	約2700人

表6 講演会等開催一覧

名 称	開 催 日 時	内 容	講 師	会 場	参加人数
第2回埋蔵文化財速報展 記 念 講 演 会	平成4年8月1日	大分の古墳文化 に つ い て	賀川光夫	コンパルホール	約100人

表7 研修等参加一覧

研 修 名	主 催	研 修 場 所	内 容	備 考
平成4年度埋蔵文化財技術者 専門研修「文化財写真課程」	奈良国立文化財 研 究 所	奈良国立文化財 研究所研修棟	写真技術の向上	
平成4年度大分県市町村埋蔵 文化財担当者連絡協議会	大分県埋蔵文化財 担当者連絡協議会	宇佐教育会館	埋 蔵 文 化 財 行 政 一 般	
大 分 県 埋 蔵 文 化 財 担 当 者 研 修 会	大分県教育委員会	大分法華クラブ	調 査 技 術 の 向 上 研 修	

平成4年度
事業概要

第Ⅲ章

発掘調査内容の概要

1	下郡遺跡群 J区q・r-9・10地点	調査担当	調査面積	調査期間	地域
		坪根伸也	500㎡	92.05	A

調査は、区画街路の築造に伴う事前調査として実施した。

調査の結果、方形プランを呈する竪穴住居跡、井戸跡、近世溝、近代墓などを検出している。

竪穴住居跡は7軒を確認した。遺構の遺存状況は必ずしも良好とはいえず、かろうじて壁面が残っているといったものも少なくない。これらの中で、2号住居跡、7号住居跡としたものには、住居床面付近を中心に遺存率の高い土器を多量に内包しており、住居跡の帰属年代を特定することができる。

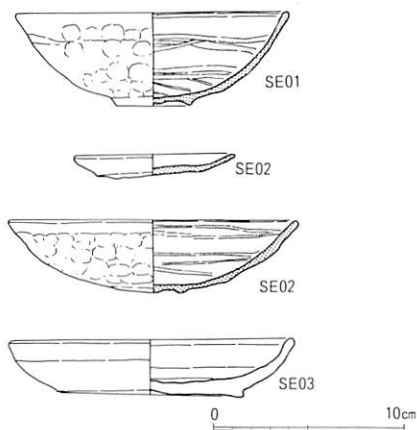
2号住居跡は調査区のほぼ中央において検出された竪穴住居跡であり、推定規模5.5m×5.6mのほぼ正方形に近い平面プランを呈する。現存深度約0.2mを測り、住居床全面に焼土塊が広範囲に分布する。また、支柱は4本であり、南側に配される柱穴間には楕円形を呈する土壇を配置する。出土遺物には、いわゆる「安国寺式土器」と呼ばれる複合口縁壺を中心に短頸壺、甕形土器の出土がみられる。おおよそ弥生時代後期後葉に位置づけられる資料である。

7号住居跡は、明確にプランを確認することができなかったが、柱穴の位置関係、遺物の出土範囲からおおよその位置を把握することができる。完存品を含む遺存率の高い遺物を内包する。出土土器の様相は2号住居跡と大差なく、おおよそ近接する時期の所産と判断されよう。

井戸跡は調査区の東部を中心に3基確認している。1号井戸は検出面で径1.3m、底面までの深さ1.85mを測る円柱状を呈する素掘りの井戸跡である。井戸底には径0.46mを測る曲げ物を据え、水溜部を形成する。出土遺物には土鍋・東播系須恵器鉢・土師器坏・瓦器・輸入陶磁器などがある。これらからほぼ12世紀代の所産と判断した。



第7図 2号住居跡遺物出土状況



第8図 井戸跡出土遺物

2号井戸跡は1号井戸跡と切り合い関係を有する素掘りの井戸跡である。土層断面の観察から1号井戸跡より後出するものであることが判明している。1号井戸のような下部施設はない。出土遺物は少ないが、出土した瓦器は1号井戸跡から出土したものと比較して、型式学的に明らかに後出するものであり、遺構の先後関係を傍証する所見を得ることができた。

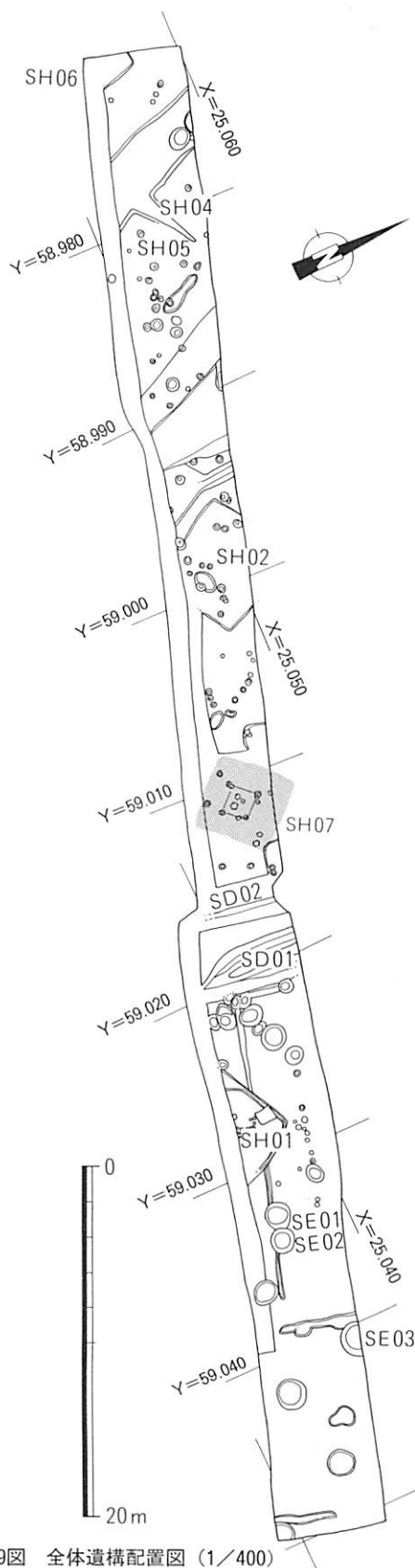
3号井戸跡の北側半分は調査区外に存する。出土遺物には甕形土器・土師器坏などがある。

溝状遺構は2本確認しているが、出土遺物から1号溝は18世紀後半以降、2号溝は近代の所産となるものであることが判明している。

以上の他に径1 m程度の人骨を内包する円形土壇数基を確認しているが、共伴出土した磁器等から近代墓であると判断された。

本地点はこれまで調査歴のなかった地点の調査事例であり、今後の周辺調査における基礎データとして重要な資料を提供したといえよう。

(坪根 伸也)



第9図 全体遺構配置図 (1/400)

2	下郡遺跡群 F区I・m-4・5地点	調査担当	調査面積	調査期間	地域
		坪根伸也	約1,400㎡	92.07～92.09	A

本地点は児童公園の建設予定地であり、平成4年7月より発掘調査を行った。調査の対象面積は約1,400㎡である。調査区は全体にわたり上面の削平が著しく遺構の残りはよくない。

調査の結果、掘立柱建物跡・土壇・井戸跡・溝状遺構を検出した。

掘立柱建物跡は、調査区のほぼ中央において検出されている。2間×2間の規模を有する総柱の建物跡である。他の遺存している柱穴の配置から、同様の建物が他にも数棟あったことを予想させる所見も同時に得ている。

土壇については数基を検出しているが、概して遺物の出土量は少なく、所産時期の特定は困難である。唯一、1号土壇内にまとまった遺物の出土がみられた。出土遺物には土師器杯・碗・皿・須恵器長頸壺・製塩土器などがある。おおよそ9世紀初頭前後の所産になるものであろう。

井戸跡は、調査区の南東角にほど近い地点に検出された。一部を3号溝に切られている。1.8m×1.85mの規模を測る方形の掘り方を有し、底部分には長さ1.1m、幅0.4m程度の板材4枚を井形に組み合わせたものを2段重ねている。これらの上部には腐食した板材の痕跡が認められることから、当初は3段以上重ねられていたとも考えられる。井戸枠は井戸底に直接設置されており、検出面から約1.5mで井戸底にいたる。

出土遺物には土師器杯・甕・須恵器長頸壺・無頸壺などがある。

遺物の中には豊前地方に主たる分布をもつ「企救型煮沸甕^{註1}」と呼ばれている甕形土器なども混在し、また、本井戸跡は手持ちへう削り手法の残る坏などの存在からおおよそ8世紀中頃



第10図 調査区全景

には構築されていたものと考えられる。同タイプの井戸跡は、下郡遺跡群内での2例目の検出事例となるものであり、所産時期としては、他の形態の井戸跡を含めても今のところ最古のものである。

また、溝状遺構に関しても数条確認している。2号溝は調査区の中央を縦走する溝状遺構である。埋土中から肥前唐津系の挿鉢片が出土しており、本溝が18世紀の後半以降の所産であることを示している。

3号溝は調査区の南東部で検出された。数回の掘りなおしが認められる。溝は連続せず、端部は方形に成形される。溝内からは、肥前染付碗などが出土しており、19世紀以降の使用年代が考えられる。

以上の他に双孔棒状土錘・14世紀～15世紀に比定される青磁片なども出土しており、今回の調査では確認されなかったが、近隣に該期の遺構が存在することを示している。

(坪根 伸也)

註) 佐藤浩司「ケズリのない甕―豊前企救型煮沸具の語るもの―」

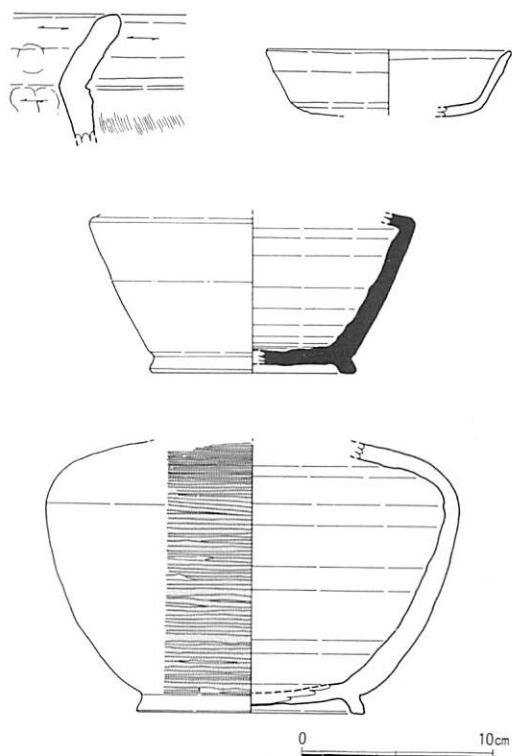
『研究紀要』第6号 北九州市教育文化事業団 1992



第11図 掘立柱建物跡検出状況



第12図 1号井戸跡検出状況



第13図 1号井戸跡出土遺物 (1/4)

発掘調査
下郡遺跡群
F区・m・4・5

3	下郡遺跡群 F区I・m-8・9地点	調査担当	調査面積	調査期間	地域
		坪根伸也	1,000㎡	92.10～92.12	A

本地点の調査地は、平成元年度の調査地の西側隣接地に相当する。

調査の結果、奈良時代～平安時代を中心とする掘立柱建物跡、土壇、井戸跡、溝状遺構、柱穴等を検出した。

3棟の掘立柱建物跡を確認している。1号建物跡は、調査区の北端において検出された。1間×3間の規模を有する。柱穴内には拳大の河原石を根締め石として埋置する。柱穴内からの遺物の出土は認められない。

2号建物跡は1号建物跡と切り合い関係を有している。一部が調査区外に展開するため、全体規模は不明である。

3号建物跡も、一部が調査区外に存するため、全体規模は不明であるが、現状で3間×4間+αの規模を測る。柱穴のひとつから須恵器蓋の完形品が出土しており、この建物が8世紀中頃の所産であることを示している。

土壇は数基を確認しているが、その中のいくつかには遺物を良好な状態で内包するものがあり、当該期の土器組成解明に少なからず資するものと期待される。特に25号土壇からは多量の土器が出土した。出土遺物の内容は多岐にわたり、土師器、須恵器等の供膳形態の他、甕等の煮沸具の出土もみられる。甕は「企救型煮沸甕²³⁾」が高比率で出土しており、当時の流通経路を考える際の参考となろう。また、本土壇には「高」と底面に刻書された土師器や「上」と刻書された須恵器破片などの出土もみられた。いずれも焼成前に線刻されたものである。

井戸跡は調査区の中央付近において検出されている。1号井戸は、方形の掘り方を有し、最下部に木製の井戸杵を埋置する。井戸杵は0.3m×1.2m、厚さ0.05m程度の板材4枚を井の字形に組んだものであり、上・下2段を確認している。井戸跡の検出面での掘り方の規模は3.05m×2.7m、井戸底までの深さ1.74mを測る。



第14図 調査区全景



第15図 1号井戸検出状況

出土遺物としては、判読はできないが、墨書土器が埋土内より1点出土している。底面に手持ちヘラ削りを施した土師器坏の底部破片である。また、井戸底付近より斎串、墨の付着した須恵器蓋なども出土した。出土遺物の様態から本井戸の帰属年代をおおよそ8世紀後半代として大過ないであろう。

また、前回の調査において出土したものも含め、かなり遺存率の高い製塩土器の出土も認められる。いずれの個体も内面に布目痕を残す砲弾形を主とするものであり、市内では豊後国分寺跡に次ぐ2例目の検出例として注目されよう。

平成元年度の調査では、8世紀後半前後に比定される井戸跡が検出されている。2号井戸跡と呼称されたこの井戸跡は上部に河原石を使用した4～5段の石組を有し、下部の水溜部分にはクスノキの半截丸太くりぬき材を合わせたものを埋置していた。今回検出した1号井戸とは約10mの距離の所に位置している。出土遺物等から今回の1号井戸と平成元年度調査時の2号井戸とは時期差を有しているものと判断されるものの、極めて近接した時期の所産と考えられ、連続して構築されたものと考えられる。両井戸の周囲には土器の散布が認められるが、土器組成には供膳形態の他、甕や甕などの煮沸具もみられることから、本調査区の周辺が、当時、井戸の存在も含めて、炊事場としての役割を一定程度担っていたと推測されよう。

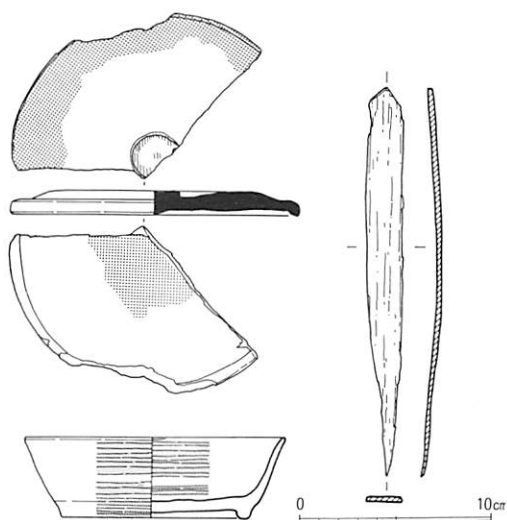
(坪根 伸也)

註) 佐藤浩司「ケズリのない甕－豊前企救型煮沸具の語るもの－」

『研究紀要』第6号 北九州市教育文化事業団 1992



第16図 25号土城遺物出土状況



第17図 1号井戸跡出土遺物 (1/4)

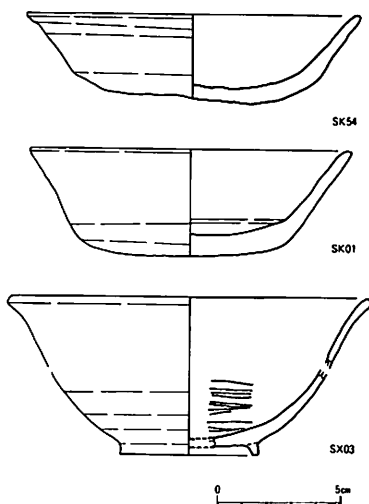
4	横尾遺跡群 B-6・7地点	調査担当	調査面積	調査期間	地域
		池 邊 千 太 郎	1,000㎡	92.05～92.09	D

横尾遺跡群は標高約35m前後の大野川左岸から松岡に延びる鶴崎丘陵上に位置する。遠くは九六位山とそれに連なる山々を望むことができる。

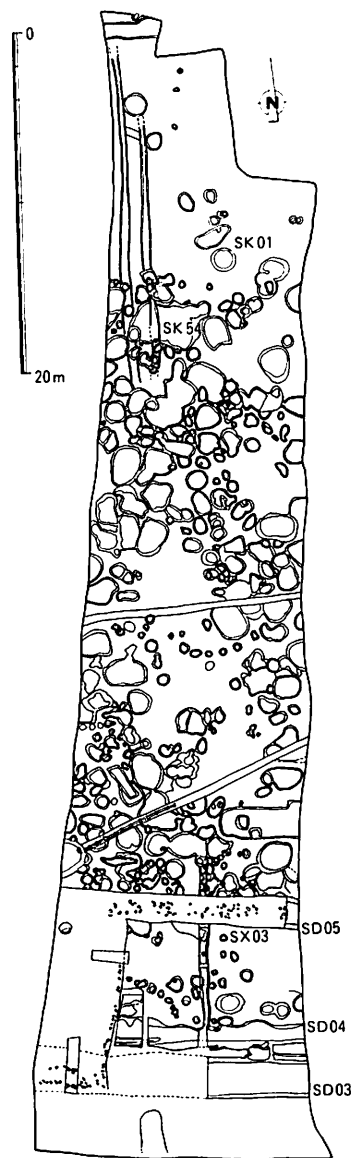
この地点で検出した遺構は、奈良時代の土壌多数、近世の溝状遺構3条、時期不明の土壌100基に及んだ。

調査区中央から北側にかけては、無数の土壌が広がっている。このうち、数カ所の土壌からは、奈良時代の土師器杯がそれぞれ1点ずつ出土している。土壌の形態は不整の円形や隅丸長方形を呈するものが多く、規模は長辺1.5～2mであった。土壌内の遺物の出土状況や形態から遺構の性格は土壌墓になるものと考えられる。また、その他の多数の土壌からは遺物が出土しておらず、表土から50cm下部に厚く堆積する粘土層まで掘り込まれていることから土器粘土の採掘跡と考えられる。

一方、調査区南側には、東西に走る3条の溝が検出されている。一番南に位置するSD03は幅2.3m、深さ0.4mと大きく、掘り方が逆台形を呈するものである。遺構からは肥前染付碗や小杯が見られ、年代は18世紀後半代である。また、これと平行して幅1.5m、丸底の溝(SD04)が見られる。そして、この2条の溝を切って、鉤の手状にSD05の溝が走る。遺物には18世紀後半頃の唐津系の摺鉢が出土している。溝の幅は1.9m、掘り方は逆台形を呈し、内部に20～30cm大の円礫を2～3段積み上げて暗渠の機能を有している。こうした大規模な溝が見られることから、なんらかの施設が付随することが考えられ、今後は周辺部の調査から遺構の性格を掴む必要があらう。(池邊千太郎)



第18図 B-6・7地点出土遺物 (1/3)



第19図 B-6・7地点遺構配置図 (1/450)

5

横尾遺跡群
C-14地点

調査担当	調査面積	調査期間	地域
池邊千太郎	500㎡	92.10～93.02	D

昭和54年から56年度にかけて調査がおこなわれた多武尾遺跡の北側100m付近に位置する。

多武尾遺跡では環濠集落が確認されており、今調査地点にまで遺構の範囲が広がるかどうかを確認するものであった。

遺構および遺物は以下の通りである。

遺構 弥生時代：方形の竪穴式住居跡1軒(SH01)

方形の貯蔵穴2基

時期不明：掘立柱建物跡3棟

全て桁行が東西方向に延びる

SB01 桁行3+d間×梁行2間

SB02・03 桁行2間×梁行1間

近世：溝状遺構3条(SD01・02・03)

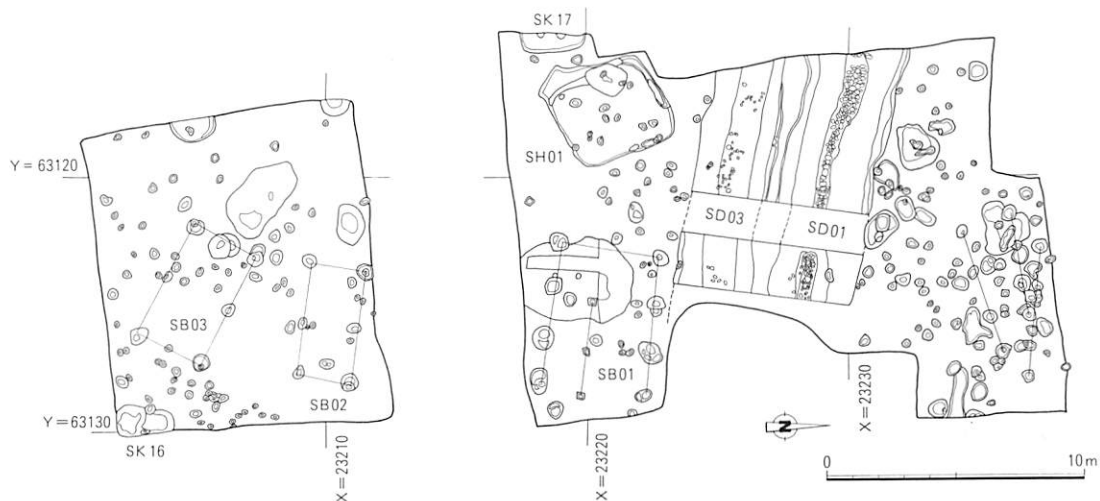
遺物 弥生時代中期～後期の甕・壺

近世の陶磁器類

多武尾遺跡との関連性が注目される場所であったが、弥生時代の環濠は発見されなかった。しかしながら、弥生時代の遺構の範囲はかなり広範囲に広がっていることが判明した。



第20図 C-14地点調査区全景



第21図 C-14地点遺構配置図(1/300)

6 一木遺跡	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	塔 鼻 光 司	1,000㎡	92.04～92.06	F

本遺跡は、大分市の東部坂ノ市地区、大分市大字一木字三百坪2809-29、30、31に所在する。

地形的には、西に県下最大の河川である大野川が北流し、南東方向には丹生川が坂ノ市地区西側を北流する。遺跡はこの2河川にはさまれた標高40m～50mを測る丹生台地上に位置する。

一木遺跡周辺には、丹生台地上西端に旧石器時代の丹生遺跡の他、東上野原遺跡、岡遺跡、善福寺遺跡、経蔵原遺跡、貝殻山遺跡など弥生時代～古墳時代の多くの遺跡が所在する。また、台地北側砂丘上には、浜遺跡、その周辺には多くの古墳・横穴墓群も分布しており、当該台地一帯は、原始古代遺跡を中心とする埋蔵文化財の集中地帯といえる。

本遺跡の調査区内からは、住居跡(SH)5軒のほか土壇(SK)、掘立柱建物跡(SB)が確認された。

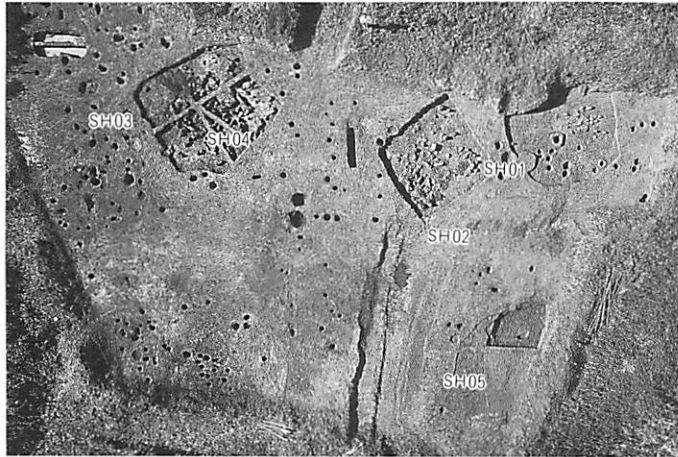
以下に各遺構について概略を記述する

・住居跡

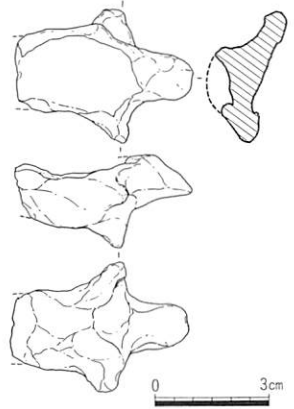
遺構番号	平面プラン	規 模	時 期	備 考
S H 0 1	隅 丸 方 形	一辺約 6 m	弥生時代中期	竈を有する
S H 0 2	方 形	一辺約5.5m	6 世 紀 前 半	
S H 0 3	方 形	一辺約 6 m	5 世 紀 前 半	
S H 0 4	方 形	一辺約 6 m		
S H 0 5	円 形			南半面が削平されており、規模は不明

土壇については弥生時代中期のものと中世(16世紀頃)ものが確認されている。

掘立柱建物跡については柱穴の並びにある程度の規格性をもつものがあり、数棟の建物があるものと思われる。



第22図 調査区全景



第23図 土製品実測図 (1/2)

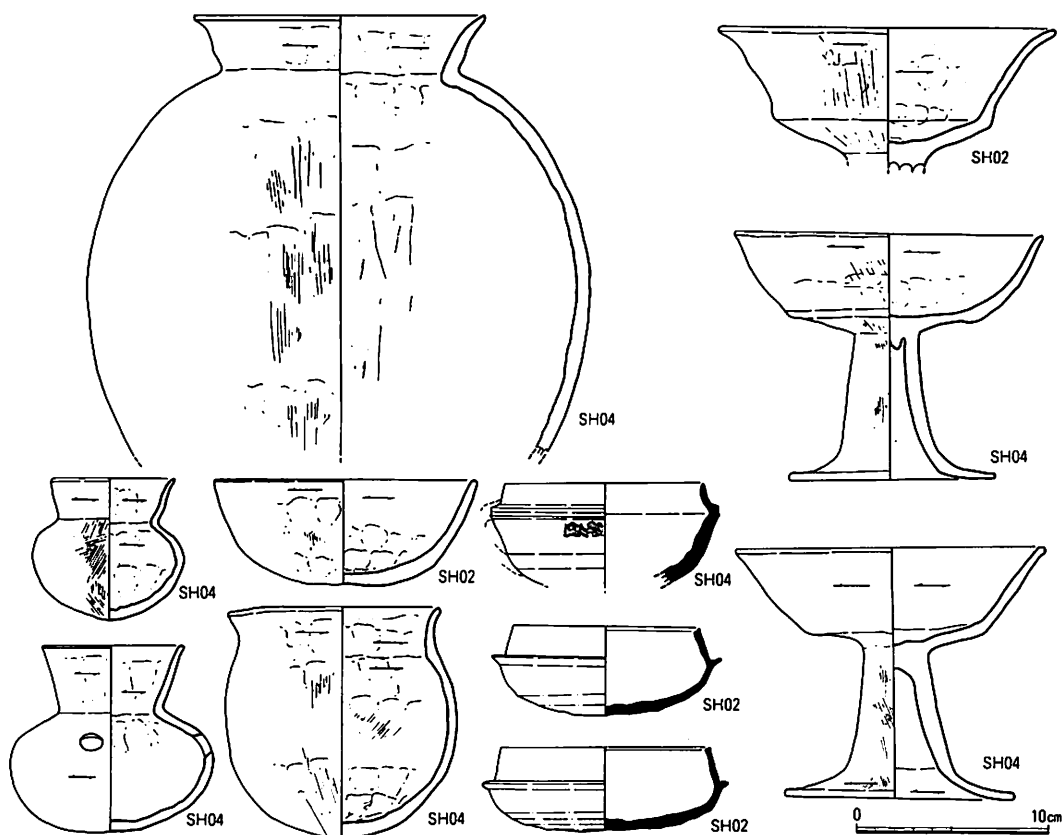
まとめ

今回の調査から、弥生時代中期と古墳時代の集落、ならびに中世(16世紀)の建物跡が確認された。

弥生時代の住居跡については、遺存状況が悪く詳細は不明であるが、古墳時代住居跡には2号住居跡、4号住居跡のように遺物を多数内包するものもあり、古墳時代中期～後期における貴重な資料を提供した。

4号住居跡は古式の須恵器破片を出土し、須恵器出現期の資料として重要である。竈は認められず、住居中央に地床炉を有する。2号住居跡は須恵器坏をはじめとして多量の土師器資料を内包する。出土した須恵器からはほぼ6世紀前半代の実年代が考えられよう。注目される遺物として「土製品」がある。半分以上を欠失するが、両側に延びる突起は明らかに腕、あるいは脚を連想させるものであり、なんらかの模造品であろうと考えられる。この住居跡は竈を壁際に付設する。

また、本調査区は地元の伝承では中世の寺院跡といわれており、掘立柱建物跡の性格など慎重な検討が必要であろう。(塔鼻光司)



第24図 住居跡出土遺物実測図 (1/4)

7 賀来中学校遺跡	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	讀 岐 和 夫	160㎡	92.06～92.08	B

当遺跡は大分市大字賀来に所在しており、市街地より南西約6km、大分川とその支流賀来川の合流地点に近い標高17mの微高地上に位置している。

この地域は中世において、賀来荘として賀来氏の本貫地をなし、館跡の存在が伝承されている場所でもある。

今回の調査は、屋内運動施設(新体育館)の建設に伴うもので、昭和55年の調査(第1次調査)の調査区の北側に相当し、1次調査時に検出された1号溝の延長部の存在が予見されていた。

第3次調査となる今回の調査では、弥生時代、中世の所産となる溝状遺構を検出した。弥生時代の溝状遺構は北東から南西方向に延び、第2次調査の調査地点へと向かっている。規模は、現状で幅2m、深さ1.5mを測り、断面形状はV字形を呈している。溝の底は南側から北側へと深くなっている。また、途中から溝が枝分かれする様に南北方向にも溝(SD02)が掘られ、規模は幅3m、深さ0.5mを測る。断面形状は逆台形を呈していた。

溝状遺構内には、第1次・第2次調査時に検出された溝状遺構と同様に多量の遺物が廃棄された状況で検出されている。

出土遺物には、甕形土器と複合口縁の壺形土器、鉢形土器、高坏形土器、甕形土器、器台



第25図 調査状況



第26図 3号溝遺物出土状況



第27図 調査区全景

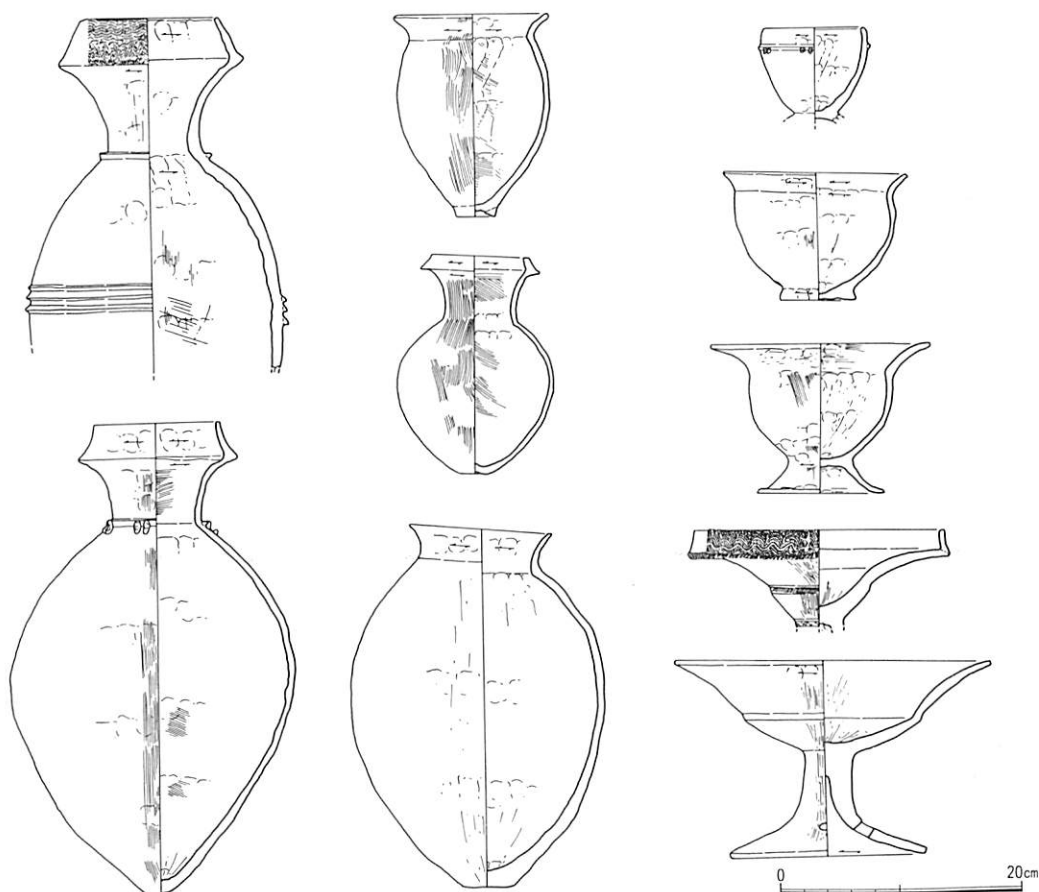


第28図 溝内遺物出土状況

(有翼器台)形土器等がみられ、出土土器の様相からこの1号溝(S D01)が第2次調査において確認された1号溝と同一のものであると考えられ、当遺跡が大規模な環濠集落であることが判明した。また、今回の調査で新たに弥生時代の溝を切るように造られた中世の溝状遺構を確認することができた。溝は東西方向に掘られており、現状で幅約6m、深さ1.2mを測る大規模なものである。断面形状は逆台形を呈する。

この溝(S D03)内からは、青磁、白磁等の輸入陶磁器や土師器・皿などが出土している他、木製の椀、火切板や板状の加工品なども出土している。出土遺物から12世紀後半から13世紀初頭にかけての所産と考えられる。中世時期の溝状遺構は第2次調査でも検出されているが、この時に検出された溝(14世紀後半～15世紀)とは所産時期が異なることから、同一の溝状遺構とは考えられない。これらの溝はいずれも賀来氏に関連する溝状遺構である可能性は否定できず、今後は溝状遺構の延長部の確認が最大の課題となろう。ちなみに、第1次調査では1棟のみであるが、2間×3間の両面庇付きの掘立柱建物跡が検出されており、関連が注目されるところである。

(讃岐 和夫)



第29図 1号溝出土遺物実測図 (1/8)

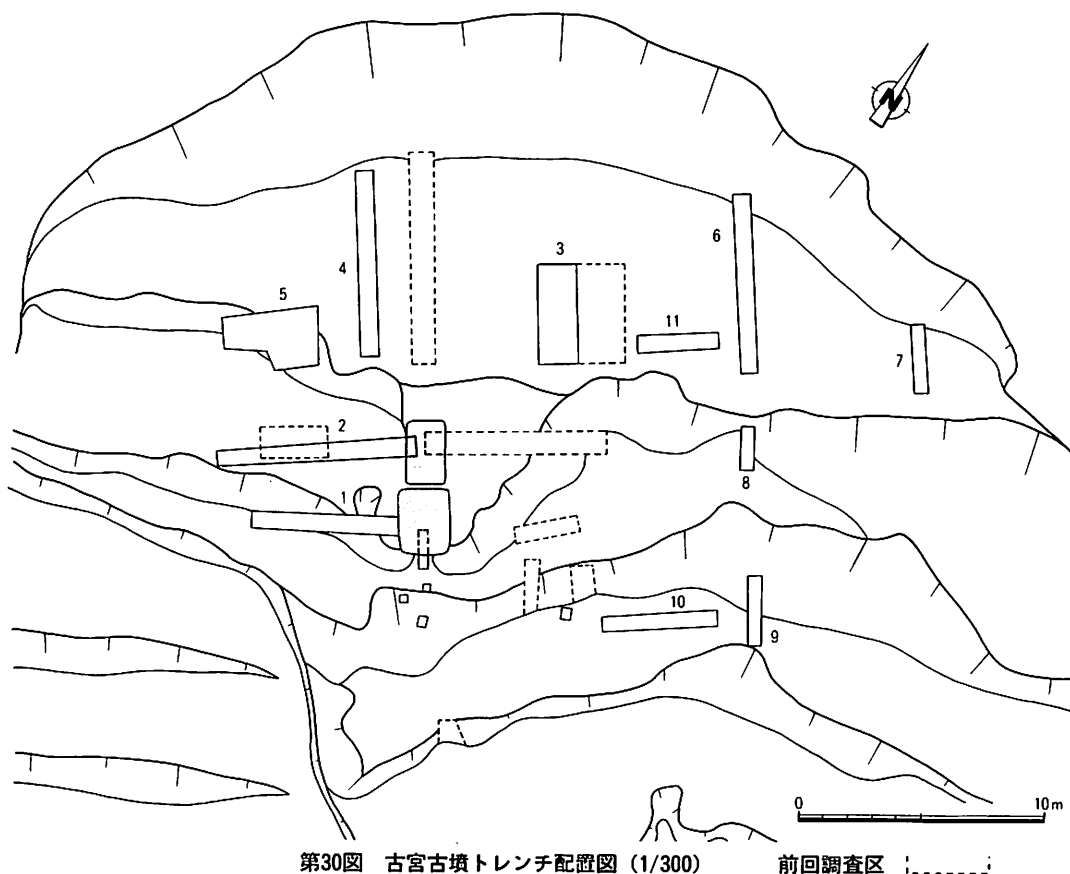
8 古宮古墳	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	讃岐和夫	古墳1基	92.12～93.2	A

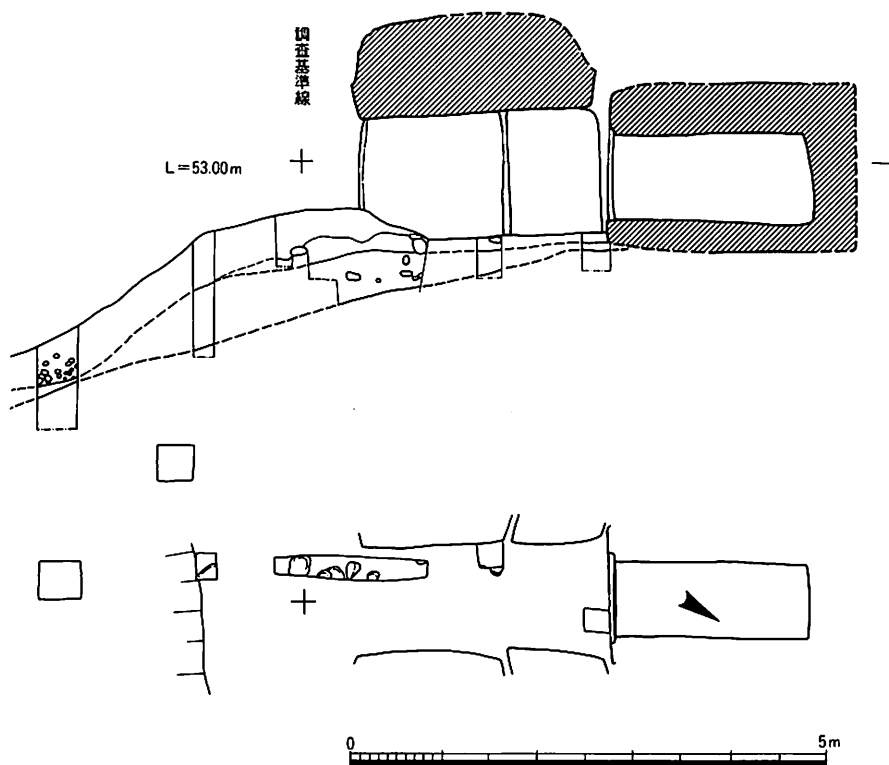
古宮古墳は大分市大字三芳字宮畑に所在する。住吉川(毘沙門川)によって開析された丘陵の中腹に位置し、標高53mを測る。古墳の周辺は近年の大規模団地開発に伴い大きく変貌し、古墳は島状に取り残されている。

古墳は昭和58年に国の史跡指定をうけ、同60・61年に土地の公有化を行ない現在にいたり、調査は古墳の整備事業に伴う調査として実施した。

今回は、昭和55年度・56年度に行なった発掘調査の補足調査として行なったものであり、以下の目的にしたがって、数本のトレンチによる調査を行なった。

- ① 羨道部・前庭部の床面と地山状況の確認
- ② 羨道部側石と石室の設置状況と墳丘規模の確認
- ③ 後背地の墳丘立ち上がりと溝遺構の確認
- ④ 墳丘西側コーナーの再確認と東側コーナーの確認
- ⑤ 墳丘造成地業の状況確認





第31図 古宮古墳石室平面・断面実測図 (1/80)

以下に今回の調査により判明したことを列挙する。

- 1 今回の調査の第1、2トレンチで確認された西側の墳丘裾部は石室主軸線より6m前後で確認され、後背平坦面に設定した第5トレンチまでの比高差は2.7mを測る。この数値は前回調査で確認された墳丘規模とほぼ同様な数値を示し、これまで考えられていた墳丘規模の妥当性を追認する結果を得ることができた。
- 2 古墳の築造地業に関しては、まず、斜面を半地下式に掘り込み平坦面を築成し、石室主体部を安置するためにその平坦面をもう一段深く中央を掘り窪めていることが明らかとなった。
- 3 溝追構の状況は第4、5、11トレンチで捕捉することができた。判明した溝規模は北部分で幅4.5m深さ0.5m、東側部分では幅5.6m深さ0.2mを測る。主軸から東西方向に傾斜しており、自然に排水できるように成形されている。
- 4 前庭部直下では、基準点から南へ約2.3mの位置で前面の墳丘の立ち上がりを確認することができた。
- 5 第6、7トレンチでは、現状地形の扇状崖面(後背地)の東側は後世の開墾による改変をうけていることが判明し、現状で推定される本来規模は約32m程度の規模が推定される。
- 6 大正4年に発行された史跡名勝天然記念物調査報告第4輯によると、古宮古墳の「羨道と石棺との間は五寸許りの間隔あり、雨露等の為に土砂多数落下」と記されており、この時点ですでに羨道と石棺の間は開いていたことを窺い知ることができる。

(讃岐 和夫)

9 羽田遺跡	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	坪 根 伸 也	1,000㎡	92.06	A

遺跡は大分市大字羽田字大日前386番地に所在する。大分平野の西部地域を貫流する大分川の河口付近の右岸に位置し、当地は古くより弥生時代～古墳時代の遺物の出土が知られ、当該期の大規模集落の存在が予想されてきたところである。

今回の調査地点は南北に連なる自然堤防の東側に展開する低湿地部分に相当し、周辺では現在でも広く水田耕作が行われている。

調査は大分市営羽田住宅新築工事に伴う事前調査として実施した。

調査の結果、古墳時代前期末以降に営まれた水田層数枚を確認した。調査区内の東側には第IVa層以下に落ちが認められるため、西側と東側とでは第IVa層下において堆積層位の差異がみられる。このため層名称については、調査区西側に展開する土層について第Ⅰ層～第Ⅵ層と呼称し、東側の落ち内堆積土については第Ⅰ層～Ⅳ層と命名した。基本土層は以下の通りである。

客 土－調査対象区の全面に認められる。現在の市営住宅建設時に水田を被覆するために持ってこれた客土である。赤茶褐色粗砂を基調とする混土層である。

第Ⅰ層－暗灰色土層 粘性はあまりなく、層下部に鉄分の垂下がみられる。旧水田作土である。

第Ⅱ層－淡灰色土層 粘性はさほどなく、第Ⅰ層同様に下層部に鉄分の垂下がみられる。土質は第Ⅰ層に類似し、色調の明暗によってのみ第Ⅰ層との分別が可能である。

第Ⅲa層－灰茶褐色砂質土層 砂質を帯びる。鉄分の垂下が多量にみられる。

第Ⅲb層－暗灰茶褐色砂質土層 第Ⅲa層に比して若干黒味を帯びる。第Ⅲa層との境界は不明瞭であり、A地点周辺でのみ分層が可能である。

第Ⅳa層－淡灰黒色粘質土層 A地点の西14mの地点から東側全面にほぼ均一な堆積状況を示す。微弱ながら粘性を帯びる。平均層厚約20cmを測る。

第Ⅳb層－暗灰白色粘質土層 A地点の西約6.6mの地点から東側に分布する。第Ⅳa層下の落ち込みにより切られており、その分布は局部的である。

第Ⅳc層－黒灰色粘質土層 第Ⅳb層下に分布し、強い粘性を有する。第Ⅴ層上面にみられる足跡状の窪み内部を中心に堆積する。均一な分布は示さず、層厚の薄厚が随所にみられ、欠落する地点も認められる。層下部すなわち第Ⅴ層上面に鉄分の固着による硬化面が存在する。

第Ⅴa層－暗黄茶褐色土層 硬質。無遺物層である。



第32図 調査区全景（南方向から）



第33図 遺物出土状況

第Ⅴb層－淡灰茶褐色土層 第Ⅴa層と第Ⅵ層との中間的な様相を示す。無遺物層である。

第Ⅵ層－灰白色シルト質土層 本地点の基盤土層であり、硬質、無遺物層である。

第Ⅰ層－灰白色粘質土層 粘性が非常に大きい。

第Ⅱ層－黒灰色粘質土層 粘性が非常に大きい。

第Ⅲ層－白灰色粘質土層 粘性が非常に大きい。

第Ⅳ層－暗白灰色粘質土層 粘性が非常に大きい。部分的に鉄分の垂下あり。

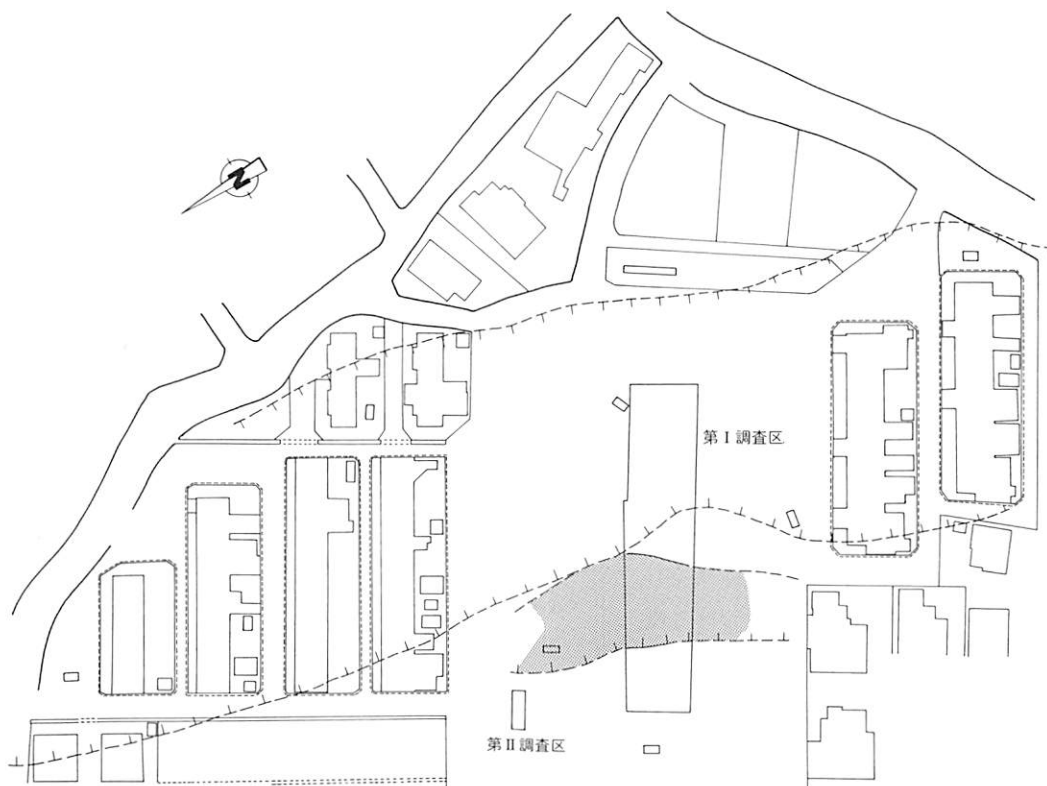
以上の土層のうち、第Ⅰ層～Ⅳc層、第Ⅰ～Ⅲ層中において多量のイネ科機動細胞プラント・オパールが検出されている。

第Ⅳc層最下面、すなわち、第Ⅴ層上面には多数の足跡状の窪みが認められ、同一面には多量の土器の出土が認められる。土器破片は細片となっているが、かなりの高比率で復元することができ、時期比定の参考となる。出土土器相は4世紀の後半段階のものと考えられ、第Ⅳc層の帰属年代をほぼこの時期のものと推定することができる。

第Ⅳb層は第Ⅳc層の分布と略一致する。この段階では東側部分には滞水地が引き続き存在し、水田はこの滞水地にそった狭小なものであったと推定される。出土遺物から7世紀代まで耕地として利用されていたようである。

第Ⅳa層の段階になると、前時代から存在した滞水地も水田として利用され、耕地の拡大が指向される。この時期は律令制の確立時期とほぼ一致することから、この耕地拡大の契機を律令制との関連において理解することも可能であろう。

(坪根 伸也)



第34図 古墳時代水田層分布推定図 (1/1200)

10 穴井下横穴墓	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	掘 岐 : 塔 鼻 坪 根 : 池 邊	横穴墓 1 基	92.04	C

穴井下横穴墓は鴛野字穴井下において宅地造成中に発見されたものであり、連絡を受けて現地にいったときには、横穴墓はすでにバックフォーによって背後から玄室奥壁が削り取られ、1/3を失っていた。こうした状況にあることから大分市教育委員では緊急に調査をおこなった。

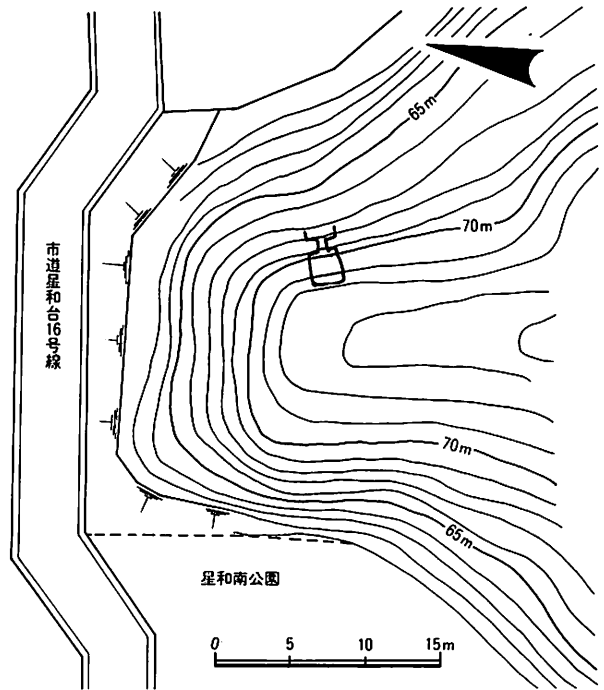
調査は玄室内を精査し、遺物の取り上げと図面作製と写真撮影をおこなった。

横穴墓の立地する場所は、南北が河川に挟まれた舌状台地にあたり、このうち東北方向から入り込んだ谷部の一番上に位置するところであるが、現在では団地開発により旧地形を把握することはできない。今回は一基のみの発見であり、単独に存在するものであった。なお、尾根を挟んで南側には多数の横穴墓が点在している。

この横穴墓は標高67m付近に位置し、東側に開口部を設けている。羨門における閉塞施設（礫や板石等）は見られず、早くから開口しているためか、玄室内部には多量の土砂が羨道より流れ込み、羨門は塞がれていた。閉塞施設が取り外されていることから内部はすでに荒らされており、埋葬時の状態を保っていないかった。

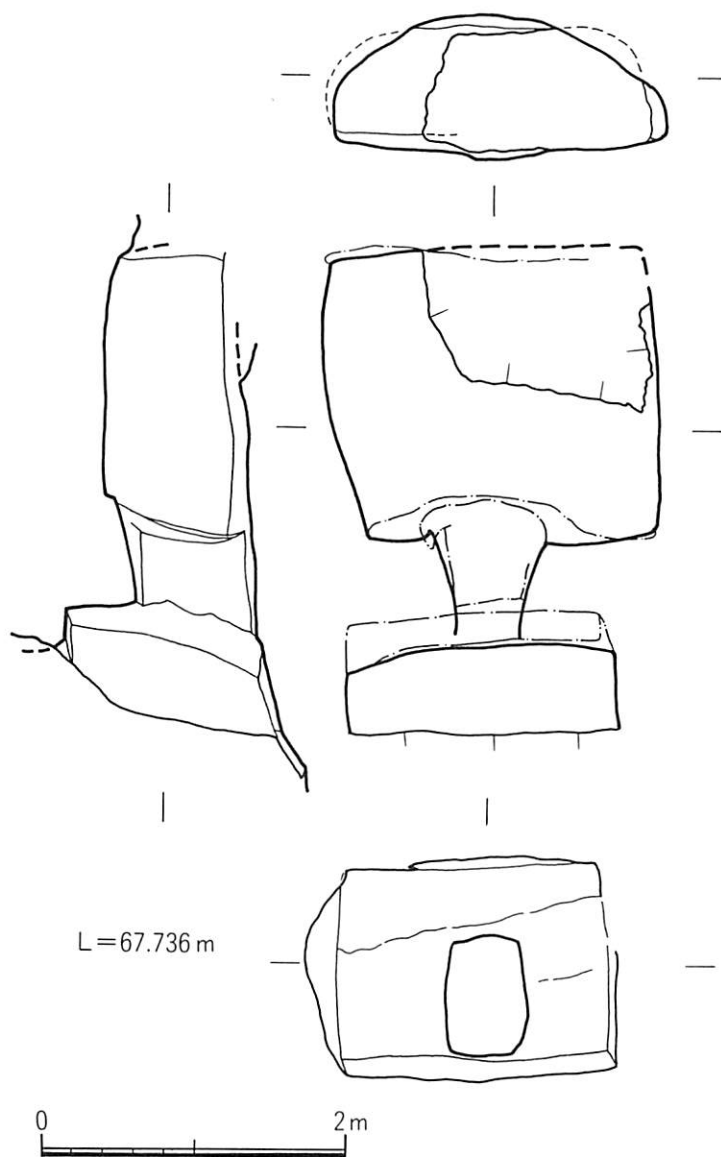
羨門は床面での幅40cm、高さ78cmあり、羨門は長さ70cmを有し、玄門に至るに従い幅が広がっている。

玄室は、幅2mに奥行き1.8mを有し、平面形はほぼ方形を成す。天井の形状はカマボコ状のアーチ形を呈し、天井高は1mを有する。内部には屍床や排水溝の施設は設けておらず、奥壁から羨門に向かってやや下り勾配に床面を成形している。床面精査中に須恵器と土師器が出土しているものの、小片であり、原位置は保っていない。このため、土器から横穴墓の構築年代を知ることができなかった。大分市内において平面形が方形を成し、天井がアーチ形を呈する形態の見られる横穴墓を付近より探せば、長谷横穴墓群・滝尾百穴横穴墓群等に見られる。これらの横穴墓群における横穴墓の時期と比較すれば、穴井下横穴墓の年代は7世紀前半代のものと考えられる。



(池邊千太郎)

第35図 穴井下横穴墓周辺地形図 (1/500)



第36図 穴井下横穴墓 平面・断面実測図 (1/50)



第37図 穴井下横穴墓 (前庭部)



第38図 穴井下横穴墓 (横方向から)

11 大曾横穴墓群	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	讃岐・塔鼻	横穴墓2基	92.12	B

大曾横穴墓群は小野鶴から田原にかけて幾重にも突き出した丘陵の舌状の谷間にあり、このうち大曾横穴墓群は谷を隔てて大曾上横穴墓群と大曾下横穴墓群の2群から成る。横穴墓は大曾上・下横穴墓群合わせて40基あまり数えられる。

大曾下横穴墓群は、今回調査をおこなったA・B横穴墓2基を含めた19基から成る群集墳である。群の分布は標高22mから43m付近にかけて見られる。横穴墓は大半が南向きに開口しているが、A・B横穴墓のみ北西向きに開口する。

[A号横穴墓]

内部構造：玄室平面形…隅丸長方形 天井形…低いドーム形

玄室規模：玄室長…164cm 最大幅…124cm 最大高…74cm

出土遺物：無

[B号横穴墓]

内部構造：玄室平面形…隅丸方形 天井形…稜線を有するアーチ形

玄室規模：玄室長…184cm 最大幅…191cm 最大高…85cm

羨道長…30cm 羨道高…72cm

出土遺物：須恵器の埴・高杯の破片

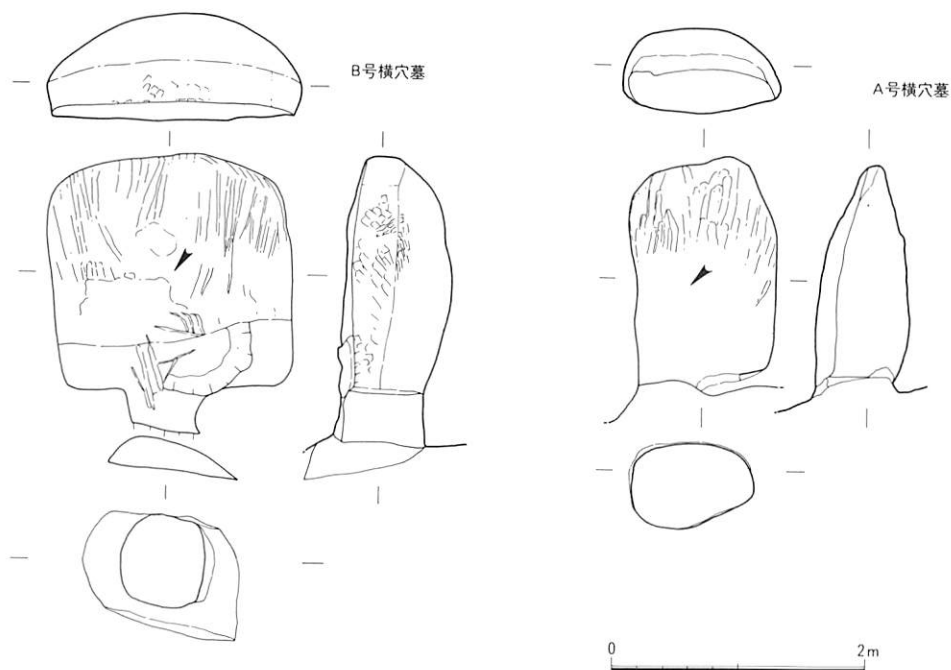
耳環1点、ガラス小玉82点、鉄鏃数点、用途不明鉄製品

今回調査を行なった2基の横穴墓は、横穴墓の群集した斜面から独立した単位群であった。A号墓とB号墓は形態的に大変異なっており時期差が認められる。B号横穴墓は出土遺物から所産年代を判断すれば6世紀末～7世紀初頭代に相当される。A号墓からは遺物が出土していないが、形態がB号横穴墓より退化しており小型化の傾向にあるため後出したものと想定できる。

大曾下横穴墓群全体の群形成過程をみれば、6世紀後半頃に大型の横穴墓が良好な場所を占有・選地して造営が開始する。7世紀には、墓域を分割しながら横穴墓が順次造営されていく。7世紀中葉には、家族的な性格というよりも個人墓的な傾向が強まり、玄室は小型化すると共に次第に造営されなくなる。

大曾下横穴墓群の造営活動がおこなわれた6世紀後半から7世紀中葉とする時期は、大分市に分布する横穴墓群の造墓活動の最盛期に相当する時期であり、横穴墓制の採用する被葬者が広がったものと考えられよう。

(池邊千太郎)

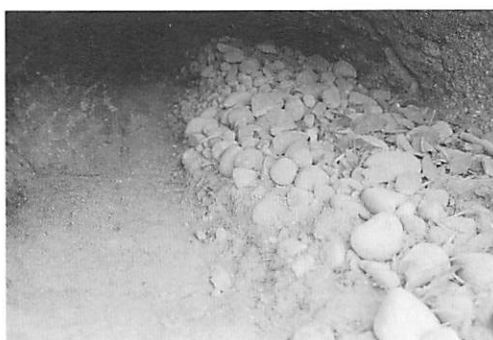


第39図 A号・B号横穴墓平面・断面実測図 (1/60)

発掘調査
大曾横穴墓群



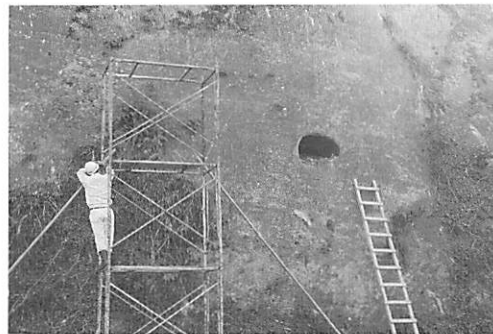
第40図 横穴墓遠景



第41図 A号横穴墓内部



第42図 B号横穴墓内部



第43図 横穴墓調査状況

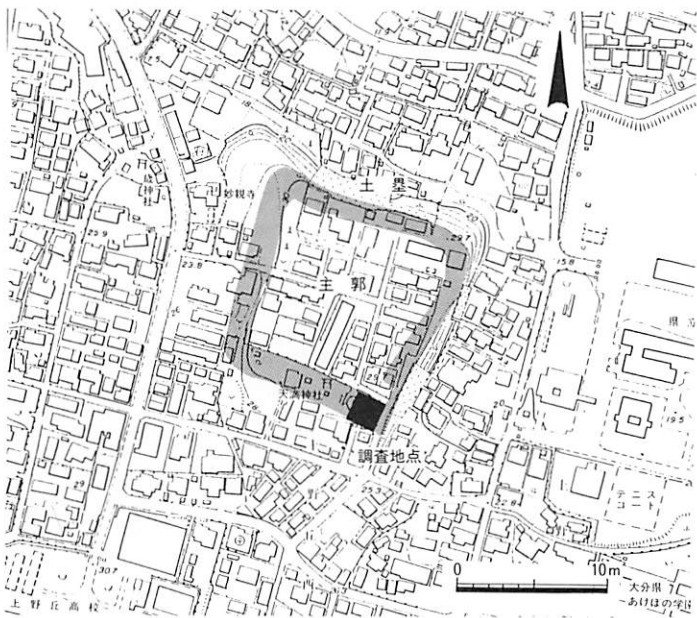
12 上野大友館跡	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	塔 鼻 ・ 池 邊	100㎡	93.03	A

上野大友館跡は大分市の市街地の南に連なる上野台地上に立地する。この館跡の調査は以前に地形測量が行なわれており、当時の館には一辺100m程の土塁が方形に巡り、その外側には堀が備わっていたことが分かっている。現状での土塁は、西側の虎口付近と南側の一部(今回の調査地点)が残るのみである。空堀は、北側を除いて3方に見られるが、現在は埋まり平坦となっており地籍図や地形により当時の面積をみることができる。

今回の調査は大友氏館跡史跡整備に伴い、平成5年3月25日から3月31日におこなわれたものである。史跡整備は大友氏館跡で唯一土塁が残る南側部分を史跡公園とするものであり、土塁遺構をそのまま保存することから、土塁の断面部分の調査を中心におこなった。

調査地点は大友氏館跡を巡る南側土塁の東西方向に伸びた東側の南虎口付近にあたり、道路によって土塁の東面が削平されており、その東側は急崖になっている。調査はこの土塁の東面を中心に土塁断面の記録調査をおこなった。

調査の結果、土塁の幅は現状で幅17mを有するが、南側にクスの木の木の大木が土塁部分に根を張り、土層観察の妨げとなったため、構築当初の土塁の規模を把握することはできなかった。土塁断面は現状で台形を呈するものであり、高さは構築面(造成面)から約2.5mを有するが、規模・形態が当時の状態を呈するものであるかは定かではない。土塁上部は昭和の頃に建物が建っていたこともあり、造成をおこなった痕跡が認められる。さらにそれ以前には墓地として利用されていたらしく、土塁の断面観察によって4ヶ所の土壌が確認され、人骨が検出された。土塁の構築状況を土層の観察から見れば、基部に黒色の軟質土層が整形されており、その面に境に版築が見られることから、館構築時に造成をおこなった面であると考えられる。この層は地形に沿って、緩やかな南下がりの面を成す。土塁内側の北側では造成面の標高は約16.5m、土塁外側の南側では、約15.5mである。土塁の構築は、10～20cm毎に版築が念入りに行なわれている。下層には砂質の層を幾重にも重ねており、中層からは硬質の小礫を含む層が見られる。



第44図 大友館跡調査地点位置図 (1/500)

これらの版築の幅は、断面から見れば1.5～2 mに集中しており、この幅をもって帯状に見られる。この版築の状況は北側では念入りに行なわれているものの、南側では殆ど認められなかった。また、土塁中央付近に幅2 mに渡って、人頭大から50cmほどの河原石が密に混入されており、土塁に伴うものか、それとも何らかの施設のためのものか注目される。なお、土塁調査の精査中、下部より中世の土師器が数点出土している。

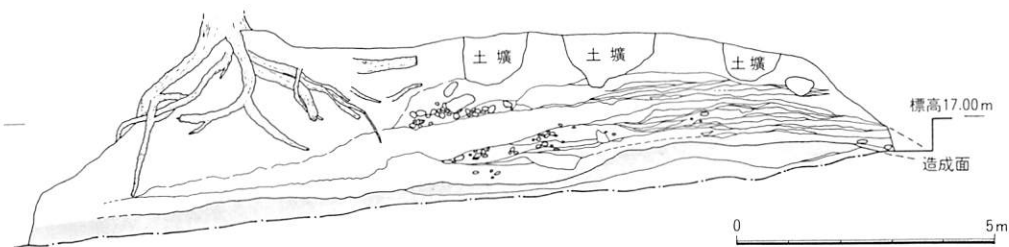
今回は史跡整備に伴うものであるため、最小限度の調査に終わった。このため、遺跡を面として捉えることができず、南虎口の施設は確認できなかった。ただ、土塁断面に見られた石垣風の石積は、注意が必要であろう。遺物の方は破片のみの出土であることから、正確な年代が判明できなかったのは残念である。しかしながら、大友氏館跡の土塁の構築状況を把握することができ、改めてこの遺跡の重要性を認識するに至った。

(池邊千太郎)



第45図 上野大友館跡土塁断面

発掘調査
上野大友館跡



第46図 上野大友館跡土塁断面図 (1/150)

13 千歳城跡	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	塔鼻・坪根	100㎡	93.02	D

調査は、造成工事の上でやむを得ず削平する部分についてトレンチを設定し(第1トレンチ)この部分について完掘を行なった。また、第1トレンチで確認された溝状遺構・土塁状遺構の延びを確認するため、第2・3トレンチを設定し調査を行なった。

以下に各トレンチの調査所見を略記する。

第1トレンチ

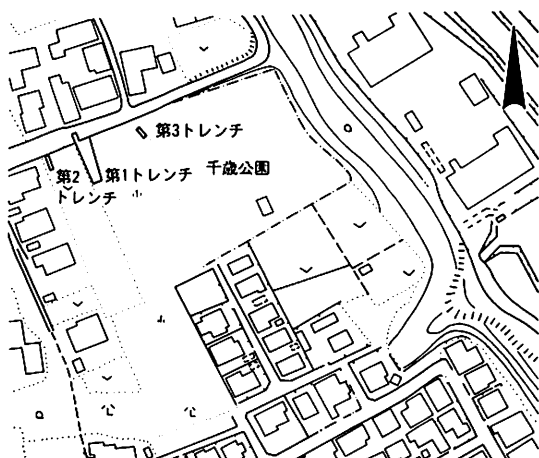
重機により表土の除去行なった後、人力による掘り下げを実施した。その結果、トレンチの西側に土塁状の高まりとその東側に溝状遺構を確認した。また、調査区東側には柱穴を主とする若干量の遺構が認められたため、掘り下げを行なっている。

・土塁状の高まり

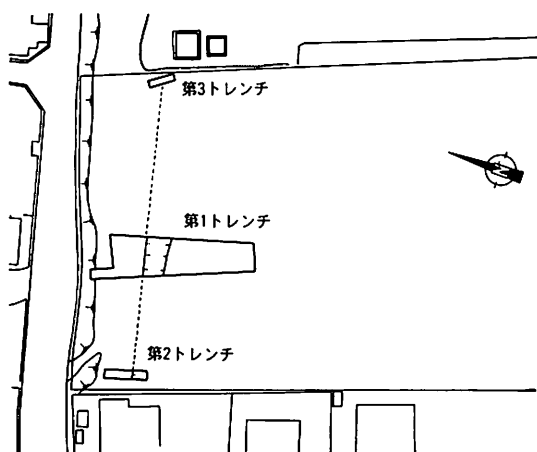
トレンチの西端で確認された。下層土(黒色土・古墳時代包含層)を台形状に形成し、その上部ならびに西側に基盤土(黄褐色土)を主体とする混土を版築状に積み上げる。現状では基盤土層からの遺存高は最大で0.56mを測るが、土塁の状況から本来は上部にも同様の土層堆積が存在していたと推察される。西側は現用道路によって削平されているため、従前の規模は不明であるが、現行で、6.4mの基底部を確認することができる。

・溝状遺構

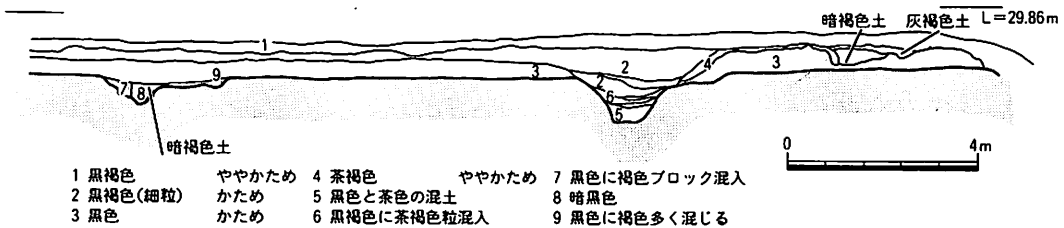
前述の土塁状の高まりの東側に隣接して確認された。溝の断面形状は逆台形状を呈する。また、土層観察ならびに平面分布上の位置関係等から土塁状の高まりと同時併存していた可能性が高い。溝幅約2.2m、深度1.2mを測る。長さ5mにわたり検出し、完掘した。溝埋土の中位と下位に拳大～人頭大の礫を多量に内包する部分があり、溝の延びに呼応するような状況で西



第47図 調査地点位置図 (1/3000)



第48図 調査トレンチ配置図 (1/1000)



第49図 第1トレンチ南壁土層断面図 (1/100)

側を中心に層状に分布する。これは溝埋没時に瞬時に流入したものと考えられ、人為的な行為のもとに行なわれたとは考えにくい。したがって、なんらかの形で土塁状の高まりに付随していたものが溝埋没過程中に流れこんだものとも考えられよう。出土遺物には土師質の土器破片の他、ある程度の形状を推察できる古墳時代土師器の出土が数点認められている。

・柱穴

調査区東側で数個の柱穴を検出した。遺構検出面からの深度は概して浅く、中には根締め石を有するものも数個認められる。今回は調査区の制約から建物配置につながるような柱穴配置は認められなかった。

第2トレンチ

第1トレンチの南西方向に設定したトレンチである。溝ならびに土塁状の高まりの延びを確認するために設定したトレンチである。遺構の延びを確認したのみで、掘り下げは行っていない。

第3トレンチ

第1トレンチの北東20mに設定したトレンチである。多量の樹根のため完掘することはできなかった。土層の堆積状況から土塁状の高まりの延びが遺存している可能性は極めて高いと推察される。

今回の調査地点は旧古から伝承等により千歳城跡と推定されてきたところである。今回の調査によって土塁状の高まりならびに溝状遺構を確認することができた。これらの遺構については厳密な時期比定を行なえるだけの物証を得ることはできなかったが、古墳時代以降の所産であることは確実視されるところであり、千歳城跡関連遺構である可能性は極めて高いと思われる。
(塔鼻・坪根)

第 IV 章 受贈図書目録

1. 調査報告書

岩 手 県

岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 3 年度分）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書178集
勸岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992

茨 城 県

鹿の子遺跡発掘調査報告書 市道104号線改良工事に伴う発掘調査報告書 第2集 石岡市教育委員会 1992
宮平遺跡 平成 3 年度発掘調査報告書 石岡市教育委員会 1992

栃 木 県

よみがえる太古 うつのみや遺跡の広場 - 史跡根古谷台遺跡保存整備事業報告書 -
宇都宮市教育委員会 1992
前田遺跡 - 宇都宮市立上戸祭小学校建設に伴う発掘調査報告 -
宇都宮市埋蔵文化財調査報告書 第29集 宇都宮市教育委員会 1991
一般国道 4 号（新 4 号国道）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の経過（平成 2 年度）
栃木県埋蔵文化財調査報告書 第120集 栃木県文化振興事業団 1991

群 馬 県

昭和町 I 遺跡 - 浅間 B 軽石埋没水田址の調査 - 高崎市教育委員会 1992
萩原団地遺跡 - 団地造成工事に伴う高崎市萩原町字伊勢 字出慶寺地区の埋蔵文化財発掘調査報告書 -
高崎市教育委員会 1993

東 京 都

武蔵台東遺跡発掘調査概報 2 武蔵国分尼寺北方地区
- 都営川越道住宅改築に伴う平成 3 年度発掘 調査概報 - 都営川越道住宅遺跡調査会 1992
武蔵国分寺関連遺跡の調査Ⅲ - 南方地区・府中市計画道路 3・2・2 の 2 号線建設に伴う
平成 3 年度発掘調査概報 - 武蔵国分寺関連 1992
城南の遺跡 - 世田谷周辺発掘調査最新報告 - 世田谷区立郷土資料館 1993
恋ヶ窪廃寺跡発掘調査概報 I - 西国分寺駅南口地区第一種市街地再開発事業に伴う調査 -
国分寺市遺跡調査会 1989
国分寺市No.37遺跡調査概報 I - 都道17号線整備工事に伴う発掘調査 - 国分寺市遺跡調査会 1991
武蔵国分寺跡発掘調査概報 X VI - 国分寺市公共下水道面整備南部地区18号工事に伴う調査 -
国分寺市遺跡調査会 1990
武蔵国分寺跡発掘調査概報 X VII - 東京警察病院多摩分院内下水道管埋設に伴う事前調査 -

神奈川県

- 相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ－相模国分尼寺跡(推定講堂・中門・経蔵跡)の調査－
海老名市教育委員会・相模国分寺遺跡調査会 1992
- 海老名本郷テニスコート周囲の夜間照明燈・グラウンドの排水溝設置のための事前調査
㈱富士ゼロックス本郷遺跡SK地区調査団 1992

山梨県

- 松原遺跡 県営緊急畑地帯総合整備事業(一宮東原地区)における幹線道路1号平成3年度分工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 一宮町教育委員会 1992

福井県

- 福井城跡Ⅰ 御屋形地区市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書 福井市教育委員会 1992

岐阜県

- 花岡山古墳群－出土人骨の分析調査報告書－ 岐阜県大垣市教育委員会 1992
- 粉糠山古墳－範囲確認調査報告書－ 岐阜県大垣市教育委員会 1992
- 大垣市埋蔵文化財調査概要 平成2年度 岐阜県大垣市教育委員会 1992

静岡県

- 角江遺跡 平成3年度二級河川新川住宅地関連公共施設整備促進(中小)工事に伴う埋蔵文化財発掘
調査概報 ㈱静岡県埋蔵文化財調査研究所 1992
- 池ヶ谷遺跡 昭和63年度静岡バイパス(池ヶ谷地区)埋蔵文化財発掘調査概報
㈱静岡県埋蔵文化財調査研究所 1989
- 池ヶ谷遺跡 平成2年度静岡バイパス(池ヶ谷地区)埋蔵文化財発掘調査概報
㈱静岡県埋蔵文化財調査研究所 1991
- 御殿川流域遺跡群 平成2年度一級河川御殿川小規模河川改修工事に伴う発掘調査概報
㈱静岡県埋蔵文化財調査研究所 1991
- 御殿川流域遺跡群 平成3年度一級河川御殿川小規模河川改修工事に伴う発掘調査概報
㈱静岡県埋蔵文化財調査研究所 1992
- 瀬名遺跡 昭和63年度静岡バイパス(瀬名地区)埋蔵文化財発掘調査概報
㈱静岡県埋蔵文化財調査研究所 1989

愛知県

- 愛知県稲沢市旧国鉄操車場跡地内試掘調査報告書Ⅱ 稲沢市教育委員会 1992

愛知県稲沢市東畑廃寺跡発掘調査報告書Ⅳ	稲沢市教育委員会 1992
豊川市内遺跡発掘調査概報Ⅰ	豊川市教育委員会 1992
名古屋市昭和区山手通一丁目H-1号窯発掘調査報告書	名古屋市教育委員会 1991
N A 320号窯群調査報告書	名古屋市教育委員会 1992
東古渡町遺跡 第4次発掘調査概要報告書	名古屋市教育委員会 1992
那古野山古墳 発掘調査の記録	名古屋市教育委員会 1992
尾張元興寺第5次調査の概要	名古屋市教育委員会 1992
貴生町遺跡 第6～8次発掘調査概要報告書	名古屋市教育委員会 1992
N N 302号窯・N N 304号窯発掘調査報告書	名古屋市教育委員会 1992
富士見町遺跡 第4次発掘調査の概要	名古屋市教育委員会 1992
名古屋市緑区大高町西大高遺跡調査報告書	名古屋市見晴台考古資料館 1992
見晴台遺跡 発掘調査報告書近代編	名古屋市見晴台考古資料館 1992
見晴台遺跡 第30次発掘調査の記録	名古屋市見晴台考古資料館 1992

三重県

青木川古墳群 - 農地改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -	四日市市教育委員会 1992
西ヶ谷古窯跡群 - 県道四日市鈴鹿環状線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -	
四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅶ	四日市市遺跡調査会 1992
二ッ塚古墳群 - あがた栄工業用地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -	
四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅶ	四日市市遺跡調査会 1991
上野遺跡2 - 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 - 四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅸ	
四日市市遺跡調査会	1992

滋賀県

上高砂遺跡発掘調査報告書 - 一般国道161号（西大津バイパス）建設に伴う大津市埋蔵文化財発掘調査報告書（20） -	大津市教育委員会 1992
山ノ神遺跡発掘調査報告書Ⅱ - 一般国道1号（京滋バイパス）建設に伴う大津市埋蔵文化財調査報告書（17） -	大津市教育委員会 1991

京都府

城陽市埋蔵文化財調査報告書第22集	城陽市教育委員会 1992
勝龍寺城発掘調査報告 長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第6集 側長岡京市埋蔵文化財センター	1991

大阪府

八尾市内遺跡平成3年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告25	
八尾市教育委員会	1992

八尾市内遺跡平成3年度発掘調査報告書Ⅱ 八尾市文化財調査報告26	八尾市教育委員会	1992
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1989年度	豊中市教育委員会	1990
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1991年度	豊中市教育委員会	1991
摂津豊中大塚古墳 第3次調査概要報告書	大塚古墳発掘調査団	1992
嶋上遺跡群16 高槻市文化財調査概要XⅦ	高槻市教育委員会	1992

兵庫県

尼崎市の指定文化財 尼崎市文化財調査報告 第23集	尼崎市教育委員会	1992
---------------------------	----------	------

奈良県

菅原遺跡－平城京西方丘陵基壇建物跡の発掘調査－ 奈良大学平城京発掘調査報告書 第1集	菅原遺跡調査会奈良大学考古学研究所	1982
コンピラ山古墳 大和高田市築山第2次調査発掘調査概報	大和高田市教育委員会	1992
飛鳥・藤原宮発掘調査概報21	奈良国立文化財研究所	1991
飛鳥・藤原宮発掘調査概報22	奈良国立文化財研究所	1992
榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 榛原町文化財調査概要8	榛原町教育委員会	1992
寺口忍海古墳群 新庄町文化財調査報告書 第1冊	新庄町教育委員会	1988
奈良県遺跡調査概報(第1分冊)1987年度	奈良県立橿原考古学研究所	1990
奈良県遺跡調査概報(第2分冊) ”	奈良県立橿原考古学研究所	1990
高取町与楽古墳群 奈良県文化財調査報告書 第56集(本文編と図版編)	奈良県教育委員会	1987
橿原市大畑遺跡 奈良県文化財調査報告書 第64集	奈良県教育委員会	1992
近内古墳群 奈良県文化財調査報告書 第62集	奈良県教育委員会	1991
山辺郡都祁村シントク古墳群 奈良県文化財調査報告書 第60集	奈良県立橿原考古学研究所	1990
大淀町大岩古墳群 奈良県文化財調査報告書 第57集	奈良県立橿原考古学研究所	1987

和歌山県

六十谷古墳群発掘調査報告書	和歌山市教育委員会	1991
鳴神Ⅵ遺跡発掘調査報告書 和歌山市文化体育振興事業団調査報告書 第3集	和歌山市文化体育振興事業団	1991
鳴神Ⅵ遺跡第2次発掘調査報告書 和歌山市文化体育振興事業団調査報告書 第4集	和歌山市文化体育振興事業団	1992
鳴神Ⅵ遺跡第3次発掘調査報告書 和歌山市文化体育振興事業団調査報告書 第5集	和歌山市文化体育振興事業団	1992

岡山県

百間川沢田(市道)遺跡発掘調査報告	岡山市教育委員会	1992
-------------------	----------	------

矢田の宝篋印塔所在地発掘調査報告

岡山市教育委員会 1992

広島県

頭崎城跡発掘調査報告書

東広島市教育委員会 1992

室山遺跡発掘調査報告書

東広島市教育委員会 1992

広島市佐伯区五日市町所在城ノ下A地点遺跡発掘調査報告

（勸）広島市歴史科学教育事業団調査報告書 第2集

（勸）広島市歴史科学教育事業団 1991

広島市安佐北区上深川町所在上深川北遺跡発掘調査報告

（勸）広島市歴史科学教育事業団調査報告書 第3集

（勸）広島市歴史科学教育事業団 1991

広島市佐伯区倉重町所在稗知遺跡発掘調査報告

（勸）広島市歴史科学教育事業団調査報告書 第4集

（勸）広島市歴史科学教育事業団 1992

広島市中区基町2番所在広島城中堀跡発掘調査報告

（勸）広島市歴史科学教育事業団調査報告書 第5集

（勸）広島市歴史科学教育事業団 1992

広島市安佐北区口田1丁目所在大久保遺跡発掘調査報告

（勸）広島市歴史科学教育事業団調査報告書 第7集

（勸）広島市歴史科学教育事業団 1992

新交通システム建設工事事業地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ

（勸）広島市歴史科学教育事業団調査報告書 第6集

（勸）広島市歴史科学教育事業団 1992

山口県

吉田馬場遺跡 山口県下関市大字吉田・吉田地方地内吉田馬場遺跡発掘調査報告書

下関市教育委員会 1992

史跡綾羅木郷遺跡保存修理事業報告書

下関市教育委員会 1992

よみがえるねむりの丘－朝田墳墓群保存修理事業報告書－

山口市教育委員会 1992

山口市内遺跡詳細分布調査（平川地区）

山口市教育委員会 1992

香川県

特別史跡讃岐国分寺跡 平成3年度発掘調査概報

国分寺町教育委員会 1992

讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田郡田岡調査報告書

高松市教育委員会 1992

愛媛県

来住・久米地区の遺跡 鷹ノ子町1次・久米窪田古屋敷C・来住町1・3次・久米高畑8次

松山市文化財調査報告書27

（勸）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター 1992

道後城北遺跡群

（勸）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター 1992

朝美澤遺跡・辻町遺跡

（勸）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター 1992

文京遺跡－第2・3・5次調査－ 松山市文化財調査報告書 第28集

愛媛大学 1992

福岡県

- 羽山遺跡 大牟田市大字草木字羽山に所在する遺跡の調査報告 大牟田市教育委員会 1992
- 白川遺跡・羽山遺跡Ⅱ 福岡県大牟田市に所在する弥生時代から歴史時代にかけての生活関連遺構を重層的に検出した遺跡の報告 大牟田市教育委員会 1992
- 井原塚廻遺跡・井原遺跡群 福岡県糸島郡前原町大字井原字塚廻所在遺跡の調査
前原町文化財調査報告書 第38集 前原町教育委員会 1992
- 今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 福岡県糸島郡前原町大字多久所在古墳群の調査報告
前原町文化財調査報告書 第39集 前原町教育委員会 1992
- 前原地区遺跡群Ⅱ 福岡県糸島郡前原町大字前原通称上町所在遺跡の調査
前原町文化財調査報告書 第40集 前原町教育委員会 1992
- 潤・老丁田遺跡 福岡県糸島郡前原町大字潤字老丁田所在遺跡の調査
前原町文化財調査報告書 第41集 前原町教育委員会 1992
- 今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告Ⅱ 福岡県糸島郡前原町大字東所在遺跡の調査報告
前原町文化財調査報告書 第42集 前原町教育委員会 1992
- 平原周辺遺跡(3) 曾根遺跡群Ⅶ 福岡県糸島郡前原町国指定史跡「曾根遺跡群」重要遺跡確認調査概要 前原町文化財調査報告書 第43集 前原町教育委員会 1992
- 荻浦の文化財 前原町荻浦地区土地区画整備事業に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の速報Ⅰ
前原町教育委員会 1992
- 太宰府条坊跡第112次発掘調査 筑紫野市文化財調査報告書 第31集 筑紫野市教育委員会 1992
- 太宰府条坊跡第113次発掘調査 筑紫野市文化財調査報告書 第32集 筑紫野市教育委員会 1992
- 太宰府条坊跡第114次発掘調査 筑紫野市文化財調査報告書 第33集 筑紫野市教育委員会 1992
- 徳力遺跡(上)ー都市モノレール小倉線及び国道322号線築造工事に伴う発掘調査ー
北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第98集 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1991
- 辻田遺跡第2地点 北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第99集
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1991
- 高津尾遺跡5(3区・26区の調査)ー九州縦貫自動車道関係文化財調査報告26ー
北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第115集 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992
- カキ遺跡(木製品編)ー九州縦貫自動車道関係文化財調査報告27ー
北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第116集 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992
- 中伏遺跡Ⅰー金山川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰー
北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第120集 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992
- 貫川遺跡5ー貫川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告5ー
北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第121集 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992
- 日吉神社遺跡 北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第123集
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992
- 堀田遺跡ー曾根下曾根1号線改修工事に伴う埋蔵文化財の調査ー

- 北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第125集 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992
 屋敷遺跡 一竹馬川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 1 -
- 北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第126集 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992
 上ノ原遺跡 北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第127集
 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992
- 貫川遺跡 6 - 北九州市小倉南区下貫 2 丁目所在の縄文遺跡の調査報告 -
 北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書 第128集 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992
- 神手遺跡 福岡県京都郡豊津町所在遺跡群の調査 椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 6
 福岡県教育委員会 1992
- 椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 7
 福岡県教育委員会 1992
- 十双遺跡、赤幡森ヶ坪遺跡、塞ノ神遺跡 椎田バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告 8
 福岡県教育委員会 1992
- 福岡県築上郡椎田町所在広幡城跡の調査 椎田バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告 9
 福岡県教育委員会 1992
- 金屋遺跡 福岡県行橋市大字金屋所在遺跡の調査
 一般国道10号線行橋バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告 第2集 福岡県教育委員会 1992
- 朝倉郡朝倉町所在鎌塚・山ノ神・鎌塚西遺跡の調査 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告22
 福岡県教育委員会 1992
- 朝倉郡朝倉町所在山田遺跡群の調査 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告23
 福岡県教育委員会 1992
- 朝倉郡朝倉町所在大迫遺跡の調査 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告24
 福岡県教育委員会 1992
- 朝鮮鐘福岡県甘木市秋月城跡出土の朝鮮鐘調査報告 甘木市文化財調査報告 第23集
 甘木市教育委員会 1991
- 朝鮮鐘福岡県甘木市秋月城跡出土の朝鮮鐘音響調査報告 甘木市文化財調査報告 第23集
 付編(追加調査編) 甘木市教育委員会 1991
- 仲島遺跡 X 福岡県大野城市仲畑所在遺跡調査報告 大野城市文化財調査報告書 第34集
 大野城市教育委員会 1992
- 牛頸小田浦窯跡群 大野城市文化財調査報告書 第35集
 大野城市教育委員会 1992
- 牛頸後田・小田浦古墳群 大野城市文化財調査報告書 第36集
 大野城市教育委員会 1992
- 北浦廃寺(第2次調査) - 国庫補助事業遺跡確認調査報告書 - 北九州市文化財調査報告書 第51集
 北九州市教育委員会 1992
- 豊前国府および源左エ門屋敷遺跡 平成3年度発掘調査概報 豊津町文化財調査報告書 第11集
 豊津町教育委員会 1992
- 柳迫遺跡 夜須地区遺跡群Ⅻ 福岡県朝倉郡夜須町大字畑島所在遺跡調査報告
 夜須町文化財調査報告書 第23集 夜須町教育委員会 1991

慮木藪遺跡夜須地区遺跡群 XⅢ 福岡県朝倉郡夜須町大字東小田所在遺跡調査報告

夜須町文化財調査報告書 第24集

夜須町教育委員会 1992

山田西遺跡 福岡県筑紫郡那珂川町大字山田字西所在の遺跡の調査 那珂川文化財調査報告書 第28集

那珂川町教育委員会 1992

カクチガ浦遺跡群Ⅱ 福岡県筑紫郡那珂川町大字松木字エゲ所在遺跡群の調査

那珂川町文化財調査報告書 第29集

那珂川町教育委員会 1992

観音山古墳群Ⅳ 福岡県筑紫郡那珂川町大字松木所在古墳群の調査

那珂川町文化財調査報告書 第30集

那珂川町教育委員会 1992

今光鷹取遺跡 福岡県筑紫郡那珂川町大字今光所在遺跡の調査 那珂川町文化財調査報告書 第31集

那珂川町教育委員会 1992

佐賀県

貴別当神社遺跡Ⅱ 佐賀県神埼郡千代田町大字下西所在の遺跡の調査

千代田町文化財調査報告書 第14集

千代田町教育委員会 1991

貴別当神社遺跡Ⅲ 佐賀県神埼郡千代田町大字下西所在の遺跡の調査

千代田町文化財調査報告書 第15集

千代田町教育委員会 1992

神田中村遺跡 - 国道204号線改良工事に伴う文化財調査報告 - 唐津市文化財報告書 第49集

唐津市教育委員会 1992

中尾ニツ枝遺跡(2) 東高木遺跡佐賀市文化財調査報告書 第36集

唐津市埋蔵文化財発掘調査報告 第50集

唐津市教育委員会 1992

村徳永遺跡(K地区)・篠木野遺跡(1区) 佐賀市文化財調査報告書 第37集 佐賀市教育委員会 1992

原ノ町遺跡・東高田遺跡・櫟木遺跡・北宿遺跡・南宿遺跡 佐賀市文化財調査報告書 第38集

佐賀市教育委員会 1992

久富遺跡 - 1区の調査 - 佐賀市文化財調査報告書 第39集

佐賀市教育委員会 1992

阿高遺跡・寺裏遺跡・梅屋敷遺跡 佐賀市文化財調査報告書 第40集

佐賀市教育委員会 1992

瓦町遺跡 佐賀市文化財調査報告書 第41集

佐賀市教育委員会 1992

村徳永遺跡 - L地区の調査 - 佐賀市文化財調査報告書 第42集

佐賀市教育委員会 1992

武雄市内古窯跡分布調査報告書 武雄市文化財調査報告書 第27集

武雄市教育委員会 1992

小楠遺跡 武雄市土地区画整備事業に伴う発掘調査報告書 武雄市文化財調査報告書 第26集

武雄市教育委員会 1991

長崎県

寿古遺跡 県営圃場整備事業福重地区にかかる遺跡発掘調査報告

大村市文化財保護協会 1992

熊本県

八代大塚古墳 - 八代平野農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 -

八代市文化財調査報告書 第1集

八代市教育委員会 1987

- 下堀切遺跡Ⅰ－熊本県八代市豊原下町所在の遺跡の調査概要－ 八代市文化財調査報告書 第3集
八代市教育委員会 1988
- 下堀切遺跡Ⅱ－熊本県八代市豊原下町所在の遺跡の調査概要－ 八代市文化財調査報告書 第4集
八代市教育委員会 1989
- 高島古墳群－熊本県八代市高島町高島山所在の遺跡調査－ 八代市文化財調査報告書 第5集
八代市教育委員会 1991

鹿 児 島 県

- 谷山弓場城跡－県道玉取迫～鹿児島港線建設に伴う緊急発掘調査報告書上巻－
鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(11) 鹿児島市教育委員会 1992
- 掃除山遺跡－県道玉取迫～鹿児島港線建設に伴う緊急発掘調査報告書下巻－
鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(12) 鹿児島市教育委員会 1992
- 造士館・演武館跡－中央公園地下駐車場建設計画に伴う緊急発掘調査報告書－
鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(13) 鹿児島市教育委員会 1992
- 福昌寺跡－玉龍高等学校体育館建設工事に伴う緊急発掘調査報告書－
鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(14) 鹿児島市教育委員会 1992
- 大龍遺跡－大龍小学校体育館建設工事に伴う第7次緊急発掘調査報告書 第1集
鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(15) 鹿児島市教育委員会 1992
- 知覧町農漁村の民俗と技術伝承 知覧町民俗資料調査報告書(3) 知覧町教育委員会 1992
- 川内市文化財基礎調査報告書(埋蔵文化財) 川内市埋蔵文化財報告書(2) 川内市教育委員会 1992

宮 崎 県

- 上南方地区遺跡 県営圃場整備事業上南方地区に伴う発掘調査概要報告書
延岡市文化財調査報告書 第6集 延岡市教育委員会 1991
- 上南方地区遺跡 県営圃場整備事業上南方地区に伴う発掘調査概要報告書
延岡市文化財調査報告書 第8集 延岡市教育委員会 1992
- 差木野遺跡－企業誘致用地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－ 延岡市文化財調査報告書 第9集
延岡市教育委員会 1992
- 下北方古墳－遺物編－埋蔵文化財調査研究報告Ⅲ 宮崎県総合博物館 1990
- 下弓田古墳－資料編Ⅰ－埋蔵文化財調査研究報告Ⅳ 宮崎県総合博物館 1991
- 西ノ原第2遺跡 蓮ヶ池横穴群保存整備事業概報(横穴保存工事修景工事) 宮崎市教育委員会 1992
- 高岡町遺跡詳細分布調査報告書 高岡町埋蔵文化財調査報告書 第2集 高岡町教育委員会 1992
- 黒石遺跡 ふるさとづくり特別対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
都農町文化財調査報告書 第4集 都農町教育委員会 1992
- 内野々遺跡 林業試験場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 宮崎県教育委員会 1992
- 国衛・郡衛・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅰ 宮崎県教育委員会 1992

樺山・郡元地区遺跡 年見川小規模河川改修事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 宮崎県教育委員会 1992
 海蔵寺遺跡・様屋敷遺跡 国道221号線バイパス建設関係発掘調査報告書 宮崎県教育委員会 1992
 田代ヶ八重遺跡 綾北川総合開発建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 宮崎県教育委員会 1992
 穂北城跡 県道杉安・高鍋線道路改良工事関係発掘調査報告書 宮崎県教育委員会 1992
 吉村遺跡・中池遺跡・中荻遺跡他平成3年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書
 宮崎県教育委員会 1992
 永田原遺跡・小木原遺跡群 蔵地区・口の坪遺跡ー上江・池島地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化
 財調査報告書Ⅰー えびの市文化財調査報告書 第6集 えびの市教育委員会 1990
 長江浦地区遺跡群・水流馬場田遺跡 長江浦地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書ー
 えびの市文化財調査報告書 第10集 えびの市教育委員会 1992
 鬼塚ヒレ原遺跡 鬼塚地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
 小林市文化財調査報告書 第4集 小林市教育委員会 1992
 水落遺跡 県営出の山地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
 小林市文化財調査報告書 第5集 小林市教育委員会 1992
 大岩田村ノ前遺跡 発掘調査報告書 都城市文化財調査報告書 第14集 都城市教育委員会 1991
 都之城取添遺跡 発掘調査概報 都城市文化財調査報告書 第15集 都城市教育委員会 1991
 西原第2遺跡・築池地下式横穴墓1991ー1号・久玉遺跡(第4次調査) 松原地区Ⅱー2遺
 跡・横尾原遺跡・黒土遺跡 都城市文化財調査報告書 第16集 都城市教育委員会 1992
 屏風谷第1遺跡 都城市文化財調査報告書 第17集 都城市教育委員会 1992
 瀬戸ノ上遺跡 都城市文化財調査報告書 第18集 都城市教育委員会 1992
 金石城跡 都城市文化財調査報告書 第19集 都城市教育委員会 1992
 中大五郎第1、2遺跡 都城市文化財調査報告書 第20集 都城市教育委員会 1992
 遺跡詳細分布調査報告書 高崎町文化財調査報告書 第3集 高崎町教育委員会 1992
 天ヶ谷遺跡 野尻町文化財調査報告書 第5集 野尻町教育委員会 1992
 速日峰地区遺跡Ⅱ 平成3年度県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
 北方町文化財報告書 第3集 北方町教育委員会 1992
 笠下下原遺跡 平成3年度農村基盤総合整備事業関係発掘調査概要報告書
 北方町文化財報告書 第4集 北方町教育委員会 1992
 南久保山小堀町遺跡 平成3年度農村基盤総合整備事業関係発掘調査概要報告書
 北方町文化財報告書 第5集 北方町教育委員会 1992

大分県

宇佐大路ー宇佐への道調査ー 大分県文化財調査報告 第87輯 大分県教育委員会 1992
 諫山遺跡B地区・外園遺跡・美濃尾遺跡・佐知久保畑遺跡 三光地区遺跡群発掘調査概報Ⅱ
 三光村教育委員会 1992
 杵築地区遺跡群発掘調査概報Ⅲ 杵築市埋蔵文化財調査報告書 第4集 杵築市教育委員会 1992

朝地地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ	朝地町教育委員会	1992
田井原遺跡・辻原遺跡 広域農道大野川上流南部地区埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ	竹田市教育委員会	1991
田井原遺跡・辻原遺跡 広域農道大野川上流南部地区埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	竹田市教育委員会	1992
竹田地区南部遺跡群Ⅱ	竹田市教育委員会	1991
竹田地区南部遺跡群Ⅲ	竹田市教育委員会	1992
岡藩主おたまや公園整備事業報告書Ⅱ	竹田市教育委員会	1991
岡藩主おたまや公園整備事業報告書Ⅲ	竹田市教育委員会	1992
史跡岡城跡Ⅵ 平成2年度史跡岡城跡保存修理事業報告書	竹田市教育委員会	1991
史跡岡城跡Ⅶ 平成3年度史跡岡城跡保存修理事業報告書	竹田市教育委員会	1992
平井A遺跡・平山B遺跡 国営大野川上流農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	竹田市教育委員会	1992
菅生台地と周辺の遺跡XⅤ 大分県竹田地区遺跡群発掘調査報告石井入口遺跡・石井入口北遺跡	竹田市教育委員会	1992
駒方津室迫遺跡・夏足原遺跡（O地区）大野地区遺跡群発掘調査報告書	大野町教育委員会	1992
伊藤田窯跡群 一般国道10号線中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書(4)	大分県教育委員会	1992
下郡桑苗遺跡Ⅱ - 弥生時代のブター 大分県文化財調査報告書 第89輯	大分県教育委員会	1992
会下遺跡・的場2号墳・塩屋伊豫野原遺跡 大分空港道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1	大分県文化財調査報告書 第83輯	大分県教育委員会 1991
大分県内遺跡詳細分布調査概報11	大分県教育委員会	1992
慈眼山・瀬戸口遺跡 平成3年度国家公務員合同宿舍日田住宅2号棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	大分県教育委員会	1992
川部遺跡・小部遺跡8次調査 宇佐地区遺跡群発掘調査概報	宇佐市教育委員会	1992
虚空蔵寺遺跡 一般国道10号宇佐・別府道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	宇佐市教育委員会	1992
下林遺跡 一般国道10号宇佐・別府道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ	宇佐市教育委員会	1992
山ノ下横穴墓群・中原遺跡 一般国道387号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	宇佐市教育委員会	1991
丹生遺跡群の研究	縄古代学研究所	1992

2. 定期刊行物・図録等（平成4年度）

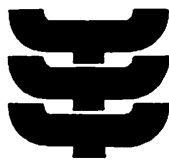
調査年報4 平成3年度	縄北海道埋蔵文化財センター	1991
文学とエピソードで訪ねるあさひかわの文化財	旭川市教育委員会	1993
紀要Ⅻ（平成3年度）	縄岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992
宇都宮の農具米作り・麦作り	宇都宮市教育委員会	1991

宇都宮市文化財年報 第6号(平成元年度)	宇都宮市教育委員会 1990
宇都宮市文化財年報 第7号(平成2年度)	宇都宮市教育委員会 1991
文化財学習の手引(第8集)「宇都宮遺跡の広場」活用方法編	宇都宮市教育委員会 1991
埋蔵文化財センター年報第2号(平成4年度)	栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992
栃木県埋蔵文化財センター通信No.2「やまかいどう」'91冬号	栃木県埋蔵文化財センター 1992
研究紀要9	栃群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
東京大学考古学研究室研究紀要 第十号(上)	東京大学考古学研究室 1991
東京大学考古学研究室研究紀要 第十号(下)	東京大学考古学研究室 1991
勝光院文化財総合調査報告	世田谷区教育委員会 1992
世田谷区史料叢書 第七巻	世田谷区教育委員会 1992
続石井至毅著作集	世田谷区教育委員会 1992
世田谷の歴史と文化(展示ガイドブック)	世田谷区立郷土資料館 1992
世田谷区立郷土資料館だよりNo.16	世田谷区立郷土資料館 1992
国分寺のふるさとを訪ねて	東京都国分寺市 1992
八王子千人同心史通史編	八王子市教育委員会 1992
八王子千人同心史資料編ⅠⅡ	八王子市教育委員会 1992
伝統と文化No.16	㈱ポーラ伝統文化振興財団 1992
古代 第93号	早稲田大学考古学会 1992
古代 第94号	早稲田大学考古学会 1992
社寺参詣と代参講	世田谷区立郷土資料館 1992
資料館だよりNo.18	世田谷区立郷土資料館 1993
国立歴史民俗博物館研究報告 第45集 田中稔教授追悼号	国立歴史民俗博物館 1992
国立歴史民俗博物館研究報告 第46集 中・近世における東国と西国	国立歴史民俗博物館 1992
えびなの史跡	海老名市教育委員会 1992
静岡県埋蔵文化財調査研究所「年報Ⅶ」(平成2年度事業概要)	静岡県埋蔵文化財調査研究所 1991
静岡県埋蔵文化財調査研究所「年報Ⅷ」(平成3年度事業概要)	静岡県埋蔵文化財調査研究所 1992
稲沢市指定文化財図録	稲沢市教育委員会 1992
特別展縄文の祈りー愛知県出土の土偶を中心としてー	名古屋市見晴台考古資料館 1992
四日市市文化財保護年報2ー平成2年度ー	四日市市教育委員会 1991
平成3年度京都市歴史資料館年報No.10	京都市歴史資料館 1991
寄託品特別展・燈心文庫の史料Ⅲ 文書の流転と保護	京都市歴史資料館 1992
長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成2年度	㈱長岡京市埋蔵文化財センター 1992
10年のあゆみ	㈱京都府埋蔵文化財調査研究センター 1992
京都府埋蔵文化財情報 第43号	㈱京都府埋蔵文化財調査研究センター 1992

京都府埋蔵文化財情報 第44号	御京都府埋蔵文化財調査研究センター 1992
京都府埋蔵文化財情報 第45号	御京都府埋蔵文化財調査研究センター 1992
京都府埋蔵文化財情報 第46号	御京都府埋蔵文化財調査研究センター 1992
第10回小さな展覧会 京都発掘'92	御京都府埋蔵文化財調査研究センター 1992
羽曳野資料館叢書 5 堺県法令集 1 山中永之佑編	羽曳野市 1992
桜井谷窯跡群 2 - 23号窯跡	大阪大学桜井谷窯跡群調査団 1991
雪野山古墳Ⅱ - 第2次第3次発掘調査概要 -	雪野山古墳発掘調査団 1992
長法寺南原古墳の研究 大阪大学文学部考古学研究報告 第2冊	大阪大学南原古墳調査団 1992
研究紀要第2	御枚方市文化財研究調査会 1992
ひらかた文化財だより 第13号	御枚方市文化財研究調査会 1992
枚方市文化財年報11 (1989年度)	御枚方市文化財研究調査会 1992
枚方市文化財年報12 (1990年度)	御枚方市文化財研究調査会 1992
史跡・嶋上郡衙跡附寺跡保存管理計画書	高槻市教育委員会 1992
遺跡ガイド 6 塚原古墳群	高槻市教育委員会 1991
遺跡ガイド 7 郡家今城遺跡	高槻市教育委員会 1991
遺跡ガイド 8 宮田遺跡	高槻市教育委員会 1991
高槻市文化財年報 平成2年度	高槻市教育委員会 1992
桜井谷窯跡群 2 - 23窯	豊中市教育委員会 1991
武器・武具からみた5世紀の日本と朝鮮	豊中市教育委員会 1991
とよなか300万年 - 大地の成立から旧石器時代まで -	豊中市教育委員会 1992
文化財ニュースNo.16	豊中市教育委員会社会教育課 1992
大阪府埋蔵文化財協会研究紀要 1	御大阪府埋蔵文化財協会 1988
大阪あーかいぶず特集号No.3	大阪府公文書館 1992
オーストラリア視察研修報告書 アボリジニ文化と開拓時代の歴史をたずねて	全国史跡整備市町村協議会 1992
真珠博物館館報 創刊号 (1985~1990)	御御木本真珠島 1991
文化財学報 第7集	奈良大学文学部文化財学部 1989
文化財学報 第8集	奈良大学文学部文化財学部 1990
文化財学報 第9集	奈良大学文学部文化財学部 1991
文化財学報 第10集	奈良大学文学部文化財学部 1992
当麻石光寺と弥勒仏 概要	奈良県立橿原考古学研究所 1992
橿原考古学研究所第9回公開講演会資料	奈良県立橿原考古学研究所 1992
橿原考古学研究所年報16 平成元年度 (1989)	奈良県立橿原考古学研究所 1991
橿原考古学研究所年報17 平成元年度 (1989)	奈良県立橿原考古学研究所 1991
橿原考古学研究所紀要考古学論攷 第15冊	奈良県立橿原考古学研究所 1991
橿原考古学研究所紀要考古学論攷 第16冊	奈良県立橿原考古学研究所 1992

藤原京跡の便所遺構 - 右京七条-坊西北坪	奈良国立文化財研究所	1992
埋蔵文化財ニュース遺跡の捜査法	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	1992
高松塚壁面の新研究	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館	1992
埋蔵文化財ニュース埋蔵文化財写真業務実態調査の結果	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	1992
埋蔵文化財ニュース1990年度埋蔵文化財統計資料	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	1992
和歌山市木ノ本所在 車駕之古地古墳現地説明会資料	財和歌山市文化体育振興事業団	1992
和歌山市史第10巻(別編)	和歌山市教育委員会	1992
史跡紀伊国分寺跡保存整備事業報告書	打田町	1992
古墳Ⅰ 東広島市の文化財	東広島市教育委員会	1992
上久々茂土居跡	島根県教育委員会	1992
吉田遺跡・障子岳(山水園)遺跡	山口市教育委員会	1992
大内氏館跡Ⅸ	山口市教育委員会	1992
堂道遺跡Ⅱ	山口市教育委員会	1992
山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ	山口大学埋蔵文化財資料館	1992
松山市埋蔵文化財調査年報Ⅳ	財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	1992
第5回特別展 分銅形土製品の謎 西日本における弥生人の顔と精神文化	松山市考古館	1992
海の路1992-第2号AUTUMN-	瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会	1992
ミュージアム・データー 第18号	財丹青総合研究所・文化空間研究部	1992
ミュージアム・データー 第19号	財丹青総合研究所・文化空間研究部	1992
ミュージアム・データー 第20号	財丹青総合研究所・文化空間研究部	1992
ミュージアム・データー 第21号	財丹青総合研究所・文化空間研究部	1993
季刊ミュージアム・データー	財丹青総合研究所・文化空間研究部	1992
NEWS LETTER九州・沖縄水中考古学協会会報第2巻第1号	九州・沖縄水中考古学協会	1991
NEWS LETTER九州・沖縄水中考古学協会会報第2巻第2号	九州・沖縄水中考古学協会	1992
NEWS LETTER九州・沖縄水中考古学協会会報第2巻第3号	九州・沖縄水中考古学協会	1992
温故 第14号 甘木歴史資料館だより№14	甘木歴史資料館	1991
温故 第15号 甘木歴史資料館だより№15	甘木歴史資料館	1991
温故 第16号 甘木歴史資料館だより№16	甘木歴史資料館	1992
大野城市のぶんかざい第24集 <大野城市の農具>	大野城市教育委員会	1992
古代海人の謎 宗像シンポジウム	財海鳥社	1991
第2回「海人」シンポジウム 東アジアの中の宗像-古代から中世へ-	「海人」シンポジウム実行委員会 宗像市役所社会教育課内	1992
はるかなる安岐郷ふるさとの文化遺産	安岐町教育委員会	1992
よみがえる小倉城下町	北九州市立考古博物館	1992
埋蔵文化財調査室年報8 平成2年度	財北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	1992

研究紀要 第6号	熊本北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	1992
笹原遺跡	大牟田市教育委員会	1992
福岡市の板碑	福岡市教育委員会	1992
九州文化史研究所紀要 第37号（比較考古学部門関係抜刷集）	九州大学九州文化史研究施設	1992
福岡市埋蔵文化財センター年報 第11号 平成3（1991）年度	福岡市埋蔵文化財センター	1992
文明のクロスロード 第39号 MuseumKyushu	博物館等建設推進九州会議	1991
文明のクロスロード 第40号 MuseumKyushu	博物館等建設推進九州会議	1992
文明のクロスロード 第41号 MuseumKyushu	博物館等建設推進九州会議	1992
文明のクロスロード 第42号 MuseumKyushu	博物館等建設推進九州会議	1992
県史だより 第63号	熊本西日本文化協会	1992
平成元年度佐賀大学教育研究学内特別経費による研究報告書		
佐賀平野の歴史地理学的研究（第1部）	佐賀大学	1992
別府市の文化財と保護樹	別府市教育委員会	1992
落穂 第47号	大分市大南地区文化財同好会	1992
落穂 第48号	大分市大南地区文化財同好会	1993
挾間町の文化財 第2集－挾間町の動植物－	大分郡挾間町教育委員会	1992
国東町の文化財	国東町教育委員会	1992
なかつのあゆみ	中津市教育委員会	1992
大佐井第10号 10周年記念特集号 大在地区文化財同好会会誌	大在地区文化財同好会	1993
埋文だより 創刊号	鹿児島県立埋蔵文化財センター	1992
埋文だより 第2号	鹿児島県立埋蔵文化財センター	1993
あした 農 月刊2月号	（株）ぎょうせい	1993



文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱（ますぐみ）のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

（昭和41年5月26日決定）

大分市埋蔵文化財調査年報 4

1993

発行日

平成5年12月31日

編集・発行

大分市教育委員会文化振興課文化財室

大分市荷揚町2番31号

〒870（0975）34-6111

印刷

大分市府内町1丁目6-29

（有）中央印刷
